

このマーク(複十字)は、
世界共通の結核予防運動の
旗印です。

No.
419

2024.11

結核・肺疾患予防のための 複十字

アジアと
世界の結核を
なくさなければ
日本の結核は
なくなる



本誌は複十字シール募金の
収益により作られています
<https://www.jatahq.org>

健康日本21

結核・呼吸器感染症予防週間活動報告



結核・呼吸器感染症予防週間 結核予防会(本部)実施行事



街頭キャンペーン

9月30日(月)12:00~13:00に街頭キャンペーンを実施しました。当会ビルの前に世界の結核発病者数クイズと呼吸器感染症予防に関するアンケートのパネルを設置。通行中の方々に答えだと思いう選択肢に複十字シールを貼っていただきました。またその際に、広報資料も配布しました。



TOKYO854 くるめラ・ラジオ番組 「ゆったり清瀬」

結核研究所名誉所長の石川信克先生(写真左)が9月23日(月)12:00放送のラジオ番組に出演。清瀬市市史編さん室の香西さん(写真右)にお越しいただき、結核について広報しました。

スカイタワー西東京ライトアップ・写真募集



スカイタワー西東京を赤くライトアップし、その写真を一般募集しました。全国のライトアップは本号P17~P20でご紹介しております。

撮影者 笹川功様
新小金井久留米線(道路)
東久留米市消防団第6分団
近くで撮影

2024年度結核・呼吸器感染症予防週間発足記念シンポジウム 「結核とパンデミック~これまでもこれからも~」

9月30日(月)13:00より結核予防週間から新名称「結核・呼吸器感染症予防週間」の発足を記念して、Zoomウェビナーでシンポジウムを開催しました。各分野の専門家に講演いただき、約203名に視聴いただきました。

<構成>

1. 基調講演「結核・呼吸器感染症予防週間」の意義
結核予防会 尾身茂 理事長
2. 感染症医療の立場から 結核と急性呼吸器感染症の概要
国立国際医療研究センター国際感染症センター 大曲貴夫 センター長
3. 市民の理解・共感を得るために~リスクコミュニケーションの視点から~
早稲田大学政治経済学術院 田中幹人 教授
4. 結核とパンデミック これまでもこれからも
厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部 鷲見学 部長
5. 全体討論



厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長就任に当たって



厚生労働省健康・生活衛生局

感染症対策部長 **鷺見学**

令和6年7月5日に感染症対策部長を拝命しました鷺見学と申します。公益財団法人結核予防会を始めとした関係者の皆様には、日頃から結核対策の推進に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

結核は、今なお我が国の主要な感染症です。令和5年の我が国の結核の罹患率（対人口10万人当たり）は8.1と、令和3年以降、目標であった「低まん延国」の水準を維持していますが、結核対策は長年感染症対策の基本であり、重要であることに変わりはありません。若年層での外国生まれの結核患者の増加や、患者全体が減少傾向となる中で、医療提供の体制や結核に関する知識や技術をどう維持・発展・継承していくかという新たな課題もあります。

厚生労働省では、一部の国からの中長期在留者に対する入国前結核スクリーニングを今年度内に導入するなどの対策を着実に進めるとともに、今後、平成28年に改正した「結核に関する特定感染症予防指針」の見直しに向けた議論を行うこととしております。

また、結核を終息させるという国際目標の達成のため、日本の結核対策の経験や技術を世界で活かしていただくことも大切です。今年9月に開催されたAMRに関する国連ハイレベル会合における政治宣言においても、多剤耐性結核対策の重要性が再確認されました。現在、我が国ではグローバルファンドへの出資を通じ、耐性遺伝子検査キットやデラマニドをはじめとする多剤耐性結核治療薬等、我が国で開発された結核関連技術の世界展開を支援する取組みを進めています。

結核対策においては、結核予防会を始めとした関係者の皆様のご理解とご協力が不可欠です。今年度から、皆様にご協力いただき長年継続されてきた「結核予防週間」を「結核・呼吸器感染症予防週間」とし、より幅広く、社会全体で感染対策に取り組むことといたしました。今後とも格別の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様の御健勝と今後ますますの御活躍をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。🐱

Contents

■メッセージ

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長就任に当たって
鷺見学…… 1

■支部長だより

支部長就任のご挨拶 須藤啓広…… 2
支部長就任のご挨拶 田原研司…… 2

■令和6年度都道府県知事表敬訪問報告（続報）…… 3

■複十字シール運動厚生労働大臣表敬訪問…… 6

■国立療養所清瀬病院跡地で退院作家の文学展示
「吉行淳之介・古賀まり子生誕百年記念きよせ結核療養文学
中央図書館展示」…… 6

■結核・呼吸器感染症予防週間活動報告
支部・本部活動報告…… 7
令和6年度結核・呼吸器感染症予防週間レポート……12
令和6年度結核・呼吸器感染症予防週間ライトアップ……17

■令和6年度結核予防技術者地区別講習会実施報告……21

■結核対策活動紹介
潜在性結核感染症（LTBI）治療中に発病した
外国生まれ患者の事例について 常盤紗弓……24

■教育の頁

第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会 会長特別企画1
結核 病める人の視点-結核病学会百周年を記念して-（その1）
工藤翔二……26

■ずいひつ

～未来へつなぐあなたたちへ～仕事に向かう姿勢 中村明……29

■世界の結核研究の動向（43）

結核・非結核性抗酸菌症に対する新しい治療薬の開発について
森茂太郎……30

■世界の結核事情（46）

多剤耐性肺結核治療薬の臨床開発とグローバル展開
川崎昌則……32

■2024年度JICA国際研修「健康危機に対応する結核対策

（革新的技術を用いた保健システム構築）」に参加して
曹宏麗……34

▽予防会だより・シールだより

- 結核・呼吸器感染症予防週間 結核予防会（本部）実施行事
- 結核の統計2024完成……34
- 令和6年度第1回複十字シール運動担当者オンライン会議
佐藤奈津江……35

〔表紙〕臨江閣（国指定重要文化財）
〔撮影〕群馬県支部

支部長だより

結核予防会支部長に就任された方にご挨拶をご寄稿いただき、本コーナーに掲載いたします。



支部長就任のご挨拶

三重県健康管理事業センター

理事長 須藤 啓広

令和6年6月、公益財団法人三重県健康管理事業センター理事長とともに、結核予防会三重県支部長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

当事業センターは、平成9年4月に結核予防会三重県支部、三重県対ガン協会、三重県予防医学協会を統合して設立されました。その後、平成21年5月には健診センター「サンテ」を開設し、平成24年4月からは公益財団法人に移行して今日を迎えています。

当事業センターは、県民の結核、がんの早期発見及び生活習慣病の予防を中心とした健診検査、健康指導及び健康教育を行い、もって県民の健康の向上に寄与することを目的に、検診車による健（検）診を主とした事業を行っています。

結核にかかるトピックとして少し古いところでは、平成12年に県内の老人保健施設で院内集団感染の発生と、また、平成13年度から県の保健所業務見直しにより結核の定期外健康診断等が当支部へ委託されたこと等を踏まえ、当時県内で唯一だったリフト検診車を、平成15年度に新たに1台増車しました。直近では、本年3月に、JKAの補助を受け、新たに胸部デジタルX線検診車を導入しました。こうした中、令和5年の三重県の対10万人あたりの罹患率は8.8、また、患者数は152人となっています。

県では第8次三重県医療計画（2024年4月から2030年3月までの6年間）において、結核については、罹患率等は飛躍的に改善しているものの、引き続き主要な感染症として取り組んでいくとしています。

当事業センターとしても、県民の健康の向上の一つとして、今後とも、結核の健康診断や予防普及啓発に取り組んでまいりますので、引き続き、本部、各支部の皆様には、ご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。🐾



支部長就任のご挨拶

島根県環境保健公社

理事長 田原 研司

令和6年6月より、公益財団法人島根県環境保健公社の理事長、並びに結核予防会島根県支部長に就任いたしました。皆様のご支援とご協力を賜りながら、全力で職務に邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

当法人は、昭和48年2月に結核予防会島根県支部など3団体を統合して設立されました。設立以来、島根県内全域で健診・検査事業を推進し、50年以上にわたって県民の健康と安全に貢献してまいりました。2014年3月には第65回結核予防全国大会を開催し、県民への結核予防の啓発にも大きく寄与したと感じております。しかしながら、依然として近年の人口10万人対

の罹患率が10前後で推移しており、特に高齢者の報告が多数を占めております。引き続き関係機関と協力しながら事業を進めてまいります。

現在、県民のさらなる健康増進を目的とした新たな健診拠点を整備中であり、令和7年4月の開所を目指しております。この拠点の完成により、常設の健診拠点として県民の皆様がより利用しやすい受診環境を提供できるものと考えております。一方で、近年は地震や台風などの自然災害が頻発しており、特に元旦に発生した能登半島地震や台風10号による被害が各地で報告されています。将来的に南海トラフ地震が予想されており、過去の被害状況を鑑みても、その備えが不可欠です。法人としても、こうした災害時に備え、健診・検査を継続して提供できる体制を整えていくことが重要だと考えております。これからも引き続き結核予防会本部・各支部の皆様のご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。🐾

令和6年度都道府県知事表敬訪問報告（続報）

8月1日から始まった複十字シール運動にあたって、結核予防婦人会長や支部役員が各都道府県の知事等への表敬訪問を行い、複十字シール運動への協力をお願いしました。前号に引き続き、各支部の表敬訪問の実施報告をお知らせいたします。

●岩手県



8/7、達増知事を岩手県地域婦人団体協議会と当支部役員で訪問。当支部専務理事武内より、複十字シール運動と結核の現状について説明。県婦協館澤会長は、結核を含めた地域の健康づくりへの展開を語られた。達増知事からは結核予防と複十字シール運動への協力の言葉をいただいた。

●埼玉県



8/27、複十字シール運動への埼玉県の協力をお願いするため、当支部勝村専務理事ほか2名、埼玉県地域婦人会連合会柿沼会長ほか5名で、大野元裕知事を表敬訪問しました。大野知事から、当支部の活動に対し激励のお言葉をいただきました。

●東京都



9/10、東京都地域婦人団体連盟・山下会長ほか役員4名と都庁を訪問。東京都から保健医療局・成田技監を始め、西塚感染症対策調整担当部長、山本感染症対策部防疫課長代理にご対応をいただいた。婦人会からは、家族とともに来日し定住する方が全国で増えていることに伴って、外国出生者と高齢者に結核患者が増えていることをお話し、結核の現状について意見交換した。複十字シールを通じて、結核予防の正しい知識の普及と啓蒙活動を行うので、昨年度と同様のご協力をお願いし、成田技監からは賛同のご理解を得ることが出来た。

また、キャンペーングッズをお渡しし9/28（土）に秋葉原で行われる予防週間街頭キャンペーン及び同時開催する『若者検診』へのご協力をお願いした。東京都からは、昨年同様に『結核・呼吸器感染症予防週間』に都庁本庁舎や、隅田川橋梁等へのライトアップを予定しているとお話が何えた。

●神奈川県



10/25、黒岩県知事を訪問し、松森理事長・荒井専務より複十字シール運動の概要説明と啓発・普及活動のご協力をお願いするとともに、結核の現状をご説明いたしました。知事ご多忙のため短い時間ではありましたが、「結核予防週間」から「結核・呼吸器感染症予防週間」になった経緯や複十字のマークの由来が話題にあがるなど、この運動の主旨をご理解いただき、訪問が終了となりました。

●福井県



9/3、南谷理事長および酒井会長（福井県健康を守る女性の会）他2名で宮下健康医療局長を訪問。結核の現状や複十字シール運動の意義・目的を説明し、普及啓発の強化を各関係機関に対して働きかけていただくよう協力を依頼した。

●静岡県



8/20、森副知事を萩原理事長、神山常務理事、静岡県結核予防婦人会の井出会長が訪問。結核の現状と県内での活動状況を報告、複十字シール運動への一層の協力をお願いした。森副知事から、「結核を含め現在低まん延となっている感染症や過去撲滅した感染症についても、今後流行する可能性がある。そのため普及啓発等、事前の予防活動は重要である。」とお言葉をいただきました。

●山口県



8/8、副知事表敬を行い、今年度から9月24日から30日は「結核・呼吸器感染症予防週間」として実施していくことを報告いたしました。また、結核撲滅のため健康診断の必要性や症状があるときは早めに受診することが大切であることをお話ししました。

●愛媛県



9/12、久野支部長と三好婦人会会長ら役員6名が菅副知事を訪問。久野支部長から結核は依然として重大な感染症であることを伝え、本運動への理解と協力をお願いした。婦人会からは、令和5年度の複十字シール運動（募金）の状況等について報告を行った。また、記念品として、ぬいぐるみ、メモ帳、ボールペン、クリアファイル、ポケットティッシュ、小型シール等を副知事に贈呈した。

●高知県



9/5, 高知県支部橋口常務理事と高知県健康づくり婦人会連合会の熊田会長他役員らが中嶋健康政策部長を訪問。複十字シール運動の趣旨及び結核の現状や募金の状況について説明し、本運動への協力をお願いした。中嶋健康政策部長からは運動へのご理解をいただくとともに日頃の受診勧奨に対する感謝の言葉をいただいた。

●長崎県



8/26, 長崎県支部5名（森崎理事長他）と長崎県地域婦人団体連絡協議会2名（兒玉会長他役員）で大石知事を表敬訪問した。長崎県の結核の現状や複十字シール運動募金報告を行い、複十字シール運動への協力をお願いした。また、大石知事は「結核予防に対する知識の普及啓発のため、今後も活動をお願いしたい。県も結核や肺疾患の予防につながるよう努力したい」と述べられた。この様子は8/28の長崎新聞（地元紙）に掲載された。

●宮崎県



8/19, 支部長より、本県は84名の方が新たに登録され、19名が亡くなり、令和3年より患者数は4名減少し死亡者は6名増加したと報告があった。会長からは、複十字シール運動について各方面の理解と協力を得たいと述べた。知事は、活動に敬意を示され、複十字運動が結核予防に繋がっていることを意識したいと述べられた。

複十字シール運動厚生労働大臣表敬訪問



複十字シール運動開始にあたり、8月21日（水）、結核予防会より尾身理事長と永田事業部長が、全国結核予防婦人団体連絡協議会より山下事務局長が厚生労働省を訪問しました。健康・生活衛生局感染症対策部の鷲見部長にお会いし、複十字シール運動への協力をお願いすると共に、第75回結核予防全国大会で採択された決議宣言文に要望書を添えてお渡ししました。今年は「結核予防週間」が「結核・呼吸器感染症予防週間」へと変わった年です。結核はまだ身近な病気です。結核ゼロを目指して活動の強化に努めてまいります。🐼

国立療養所清瀬病院跡地で退院作家の文学展示 「吉行淳之介・古賀まり子 生誕百年記念 きよせ結核療養文学 中央図書館展示」

清瀬の地で結核と向き合った多くの作家の中に、ことし生誕百年を迎えた吉行淳之介と古賀まり子がいます。清瀬市ではこのたび記念の展示を企画しました。中央図書館の展示は1階視聴覚コーナーの一角でのささやかなものですが、2階には結核関連資料コーナーもあり、広い窓には隣接する中央公園の樹木を望むこともできます。それらはかつて清瀬病院の患者たちが生と死のはざまで見上げた樹々でもあります。吉行も、古賀も、昭和20年代の一時期を国立療養所清瀬病院で過ごしました。この病院の跡地に建つ中央図書館で、感じ取っていただけるものがあれば何よりです。

会期を同じくして12月25日まで、清瀬市郷土博物館ミニ展示コーナーでも関連展示を行なっています。あわせてぜひご覧ください。

きよせ結核療養文学 中央図書館展示

会期：令和6年10月1日～12月25日10時～17時
（水曜・木曜は～19時）
＊月曜日と11月26日は休館
中央図書館所在地：東京都清瀬市梅園一丁目1-21

きよせ結核療養文学 郷土博物館展示

会期：令和6年10月1日～12月25日9時～17時
＊月曜日と11月5日は休館 たゞし11月4日は開館
郷土博物館所在地：東京都清瀬市上清戸二丁目6-41

お問合せ：清瀬市経営政策部シティプロモーション課市史編さん室 ☎042-493-5811



支部・本部活動報告

都道府県	日付	開催数	係員	資材点数 セット数	報告(1)場所・(2)配布資材・(3)活動内容等)
北海道	9/20～9/30	5か所	50名 (内婦人団体30名)	5点	1) 札幌市北区(3か所)、中央区(2か所) 2) 複十字シール小型、リーフレット、結核の常識、マスク、COPD啓発リーフレット 3) ①結核& COPD 予防普及啓発キャンペーンを札幌駅前地下歩行空間で実施(札幌市保健所と共催) 内容: 結核・COPD 予防パネル展示、酸素飽和度測定、動画上映(本部作成) ②結核・COPD 予防パネル展の開催(健診センター待合室) ③婦人会による街頭募金
青森	9/28	2か所	15名	9点 500セット	1) 青森市内大型ショッピングセンター(2か所) 2) 複十字シール運動リーフレット、結核の常識、がん検診受診勧奨用パンフレット、リーフレット(「がん検診を受けよう」、「乳がん検診とプレスト・アウェアネス」)、ポケットティッシュ、風船、シールぼうやぬり絵 3) 当センター正面玄関への結核・呼吸器感染症予防週間の看板設置、玄関ホールの小スペースにてポスター掲示、リーフレット、小型シール、募金箱を設置し、受診者やその他来訪者へPRした。
岩手	①9/17～9/30 ②9/24 ③9/24～9/30	4か所	-	-	①当協会健診施設での「結核の常識」ポスター掲出、同リーフレット配布 ②新聞広告を出稿(岩手日報) ③ライトアップ実施(東北電力ネットワーク岩手支社マイクロ波無線鉄塔、開運橋、当協会施設(盛岡市)、金ヶ崎町役場)
宮城	①9/17～9/30 ②9/18～9/30 ③9/24～9/27	4か所	-	3点 1,000セット	①1) 当法人施設(複十字健診センター及び健康相談所 興生館) 2) 受付窓口での結核の常識、ティッシュ配布 3) 当法人オリジナルパネル展示 ②1) 仙台青葉通地下道展示ギャラリー 2) なし 3) パネル展示 ③1) 宮城県庁ロビー 2) 結核の常識、法人オリジナルタバコに関するリーフレットを配布 3) パネル展示
秋田	9/28 (10:40～12:20)	1か所	27名 (支部職員19名・ 婦人会員8名)	4点 500セット	1) 秋田駅東西連絡自由通路「ぼほろ〜ど」・秋田駅前仲小路(大屋根下) 2) リーフレット(結核の常識・複十字シール運動)、カットパン、ポケットティッシュ、風船 3) 会場内のにぼりを設置。「ぼほろ〜ど」にはパネル2台を設置し、キャンペーンの趣旨、ポスター、パンフレットを掲示。今年は秋田県のPRキャラクター「んだっちゃん」も参加し、ポラロイドカメラで一緒に撮った写真をプレゼントし、子供たちには風船をプレゼントし好評だった。
山形	9/28・9/29	1か所	10名	14点 800セット	1) 9月28日(土)、9月29日(日)に開催されたやまがた健康フェア2024(イオンモール天童)へ参加し、疾病予防に関する普及啓発を行った。 2) リーフレット(結核の常識2024・複十字シール運動)・がん検診リーフレット・がん検診案内・ポケットティッシュ・ボールペン他 3) 無料体組成測定を実施し、測定結果をもとに当機構保健師がアドバイスを行った。 4) 期間中、山形検診センター庁舎をライトアップをした。
福島	9/24～9/30	①70か所 ②2紙 ③3か所	-	-	①県内各所(市町村、保健所、事業所等)に結核・呼吸器感染症予防週間パンフレット(2,200枚)やポスター(2,000枚)を配布し、普及啓発を行った。 ②新聞広告: 結核・呼吸器感染症予防週間に合わせて地方紙2紙で新聞広告を行い、結核について広く周知するとともに結核・呼吸器感染症予防週間のPRを行った(9/23、24付)。 ③結核・呼吸器感染症予防週間に県内のランドマークに結核予防のシンボルカラーである「赤色」のライトアップを実施。 ・会津鶴ヶ城: 令和6年9月24日(火)～30日(月) 日没～21時・東北電力ネットワーク福島電力センター: 令和6年9月24日(火)～30日(月) 18時～22時・東北電力黒原町火力発電所: 令和6年9月24日(火)～30日(月) 日没～21時
茨城	9/24～10/13	3か所	35名	4点 2,300セット	①茨城県・保健所及び茨城県健康をまもる女性団体連絡会との共催により、県内3か所で街頭キャンペーンを実施した。 ・9/14(土) 県立カシマサッカースタジアム ・10/4(金) 笠間芸術の森公園 ・10/13(日) つくばセンター広場 ②県民に広く結核・呼吸器感染症予防に対する正しい知識や健診の重要性を知っていただくための呼びかけを行うとともに、「結核の常識2024」等の啓発資材を配付した(計2,300セット:9/14:1,000セット 10/4:1,000セット 10/13:300セット)。 ③各自治体、県医師会、教育委員会及び学校等に結核・呼吸器感染症予防ポスターの掲示を依頼するとともに、「結核の常識2024」を配付した。【配布数】ポスター:1,100枚、結核の常識2024:10,000セット ④茨城県及び市町村に依頼し、ホームページやツイッター等のSNSにて結核・呼吸器感染症予防週間を周知した。【ホームページ】掲載自治体数:30【ホームページ以外のSNS等】配信自治体数:27、延べ配信数:54(46万人が受信) ⑤当支部のホームページにて結核・呼吸器感染症予防週間の周知及び健診の受診勧奨を実施した。
栃木	9/23	1か所	10名 (内支部6名、 婦人会4名)	1点 300セット	1) 宇都宮市内の商店街「オリオン通り」東武デパート前付近にて街頭キャンペーン実施 2) 資材セット(複十字シール運動リーフレット、小型シール、シールぼうやのボールペン、シールぼうやのメモ帳、募金案内、募金振込用紙) 3) 展示等: 結核に関するパネルの展示(6枚)・複十字風船の配布
群馬	7/13	1か所	2名 (群馬県地域婦人団 体連合会・群馬県健 康づくり財団)	5点 200セット	1) 群馬県ぐんま男女共同参画センター 2) リーフレット(結核の常識)、小型シール、はがき、ボールペン、封筒組み合わせ 3) 結核・呼吸器感染症予防週間前後に新聞広告を2紙(朝日新聞群馬版、上毛新聞)に掲載 臨江閣のライトアップ
埼玉	9/1～9/30	3か所及び 県内全域	50名	10点 8,000セット	①結核予防資材(ポスター・パンフレット等)の配付 県内医療機関、市町村、保健所、教育委員会等に結核・呼吸器感染症予防週間ポスターを掲示していただき、広く県民等に結核の予防を呼びかけた。 ②懸垂幕の掲出: 9月6日～30日 埼玉県庁本庁舎に結核・呼吸器感染症予防週間に係る懸垂幕を掲出し、県民等へ結核の予防を呼びかけた。 ③横断幕の掲出: 9月6日～30日 当支部施設に結核・呼吸器感染症予防週間に係る横断幕を掲出し、受診者や来庁者、通行者等へ結核の予防を呼びかけた。 ④街頭キャンペーンの実施: 10月5日 JR大宮駅西口ペDESTリアンデッキ及びJR川越駅東口・西口ペDESTリアンデッキにおいて、複十字シール運動街頭募金及び結核・呼吸器感染症啓発キャンペーンを実施予定であったが、雨天により中止となった。配布資材は当支部事業で使用する他、県・市町村保健所等で活用頂く予定。
千葉	9/28	1か所	44名	5点 1,500セット	1) 千葉そごう前広場 2) 複十字シール運動リーフレット、結核の常識2024、クリアファイル、ボールペン等の普及啓発資材を配布しました。 3) 複十字シール運動募金協力の呼びかけと合わせて、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」と当財団マスコットキャラクター「けんしー」が会場に登場し、結核・呼吸器感染症予防の啓発を呼びかけました。併せて、市民団体による「小さなシールに大きな愛を」他数曲の演奏公演を2回実施し、「チーバくん」と「けんしー」が指揮に参加して演奏を盛り上げました。

結核・呼吸器感染症予防週間活動報告

都道府県	日付	開催数	係員	資材点数 セット数	報告(1)場所・(2)配布資材・(3)活動内容等
東京	① 9/28 ② 9/1～9/30	① 1 か所 ② 3 か所	① 16 名	① 5 点 500 セット	①秋葉原 UDX サボニウス広場において、東京都の事業（若者検診）と共催し、健診結果の即時判定が可能な胸部 X 線車（医師 2 名同乗）を配置して、無料の結核検診を行うと同時に、東京都地域婦人団体連盟にもご協力を得て、パネルの展示と街頭キャンペーンを実施した。 ②みなと保健所では 9/1 から 9/30 までの間、保健所来所者に向けて、結核に対する理解と関心を高め、結核予防知識の普及を図るため特設展示を行っている。東京都結核予防会から、グッズやパンフレットの提供を受け活用することにより目的の効果を上げている。その中でも 3 歳児健診では、キャラクター入りのグッズ（風船やシール）が親子から喜ばれている。
神奈川	① 9/14 ② 9/22 ③ 9/24～9/27 ④ 9/1～9/30	① 1 か所 ② 1 か所 ③ 1 か所 ④ 会場 その他	① 32 名 (内神奈川県 婦連 12 名) ② 3 名	① 4 点 1,000 セット ② 4 点 500 セット	①「結核・呼吸器感染症予防週間・複十字シール運動」海老名 1) 海老名駅前自由通路（活動時間 10:00～11:00） 2) 結核の常識 2024・厚労省結核予防チラシ・複十字シール（小型・キャラクター）2 枚・ウェットティッシュを袋に入れて、通行人に配布した。 3) 安心して受け取って頂けるようマスク・白手袋して配布するのを徹底した。 ②「結核・呼吸器感染症予防週間・複十字シール運動」藤沢市民祭り 1) JR 藤沢駅コンコース 2) 結核の常識 2024、厚労省結核予防チラシ、複十字シール 2 枚、封筒セットを袋に入れて、通行人に配布した（藤沢市保健所職員様の多大なご協力をいただきました） ③「結核・呼吸器感染症予防週間」横浜市南区役所 1) 横浜市南区役所ギャラリー 2) 結核の常識 2024、複十字シール（小型、キャラクター）、小型メモ、付箋 3) 横浜市南区役所福祉保健課に協力し、結核・呼吸器感染症予防週間のポスターや広報資材を 200 部提供し区役所 1F ギャラリーにて結核・呼吸器感染症予防週間啓発展示を行う ④「結核・呼吸器感染症予防週間・複十字シール運動」職員みんなで結核予防 1) 各部署：所内、健診会場、その他 2) 結核の常識 2024、リーフレット、複十字シール（小型、キャラクター）、ポスター 3) 当会の各部署でアイデアを出し、それぞれ 9 月を結核予防啓発月間として広報を行う。 施設受付でのポスター掲示や結核の常識等の配布、郵送封筒にシール貼付、顧客・取引先への啓発、市公共掲示板へのポスター掲示、健診会場ではポスターの掲示、広報 QR コードを印刷した MG 下剤薬袋の運用など。 ⑤神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、藤沢市、横須賀市に、結核の常識・ポスター等を配布。
山梨	9/24	1 か所	12 名	2 点 2,000 セット	① 1) 甲府駅南口周辺 2) 山梨県、甲府市及び婦人会の協力を得て午前 7 時 30 分より通勤、通学の県民に向けて「STOP! 結核」のロゴ入りティッシュと「結核・呼吸器感染症予防週間」告知のカットパン 2,000 セットを配布した。 ② NHK 甲府支局、山梨放送、山梨日日新聞より取材があり当日昼帯県内ニュースの中で街頭キャンペーンの様子が放映された。さらに、翌日の新聞に掲載された。
長野	① 9/1～10/31 ② 9/4	① 検診車 10 台 ② 1 か所	② 7 名	① 1 点 ② 4 点 160 セット	①検診車の車体広告（剥離シート貼付）の実施 1) 検診車 2) - 3) 結核・呼吸器感染症予防週間に合わせて検診車に広告用の剥離シートを貼付し、市町村や企業等への巡回健診を実施。 ②信州婦人健康のつどいを実施 1) ANC アリーナ（安曇野市総合体育館） 2) 広報資材 160 セット（チラシ、結核の常識、マスクケース、複十字シール（小型、キャラクターシール）） 3) 長野県、長野県連合婦人会、結核予防婦人会長野県連合会と共催の「信州婦人健康のつどい」の中で募金活動を実施。また健康のつどいの講演に関連して、歯ブラシを販売。売上を全額複十字シール募金に寄付した。 ③その他、各自治体、県医師会及び郡市医師会、教育委員会及び学校、企業等に結核予防ポスターの掲示を依頼するとともに、チラシ、リーフレット、結核の常識 2024 を配付した。
新潟	9/14	1 か所	6 名	4 点 200 セット	1) 新潟県長岡市アオーレ長岡、すこやか・ともしびまつり 2) 結核の常識 2024、複十字シール募金パンフレット、メモ帳、ティッシュ 3) リフト機能付き胸部検診車の試乗体験と複十字シール募金の声かけ、結核に関する知識と予防について発信した。また、リフト機能付き胸部検診車の試乗体験を実施し、検診車内では、胸部レントゲン写真の説明を行った。
富山	9/28	1 か所	12 名	3 点 300 セット	1) 富山市総曲輪「グランドプラザ」付近 2) 結核の常識 2024、クリアファイル、複十字シール、ボールペン、カットパン、付箋などを配布 3) バルーンパフォーマンスによる路上パフォーマンスを催し、お子様連れの家族に PR を図った。
石川	9/24	1 か所	4 名	4 点 50 セット	1) 石川県政記念いのき迎賓館 2) 結核の常識 2024、複十字シール運動リーフレットに加え、啓発グッズ（不織布マスク、カットパン）を来客者に配布した。
福井	9/22	-	20 名	3 点 400 セット	1) アルプラザ鯖江 2) 結核の常識 2024、複十字運動リーフレット、ポケットティッシュ、風船 3) アルプラザ鯖江にて、福井県健康を守る女性の会および県職員と協力して結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、風船を配布し募金啓発活動を実施した。
岐阜	① 9/15～9/30 ② 9/26～10/6 ③ 9/24～9/30 ④ 9/20～9/30 ⑤ 9/26 ⑥ 9/27、9/29 ⑦・⑧ 9 月中 ⑨ 広報物品の配布	①② 2 か所 ③～⑨ 6 か所	⑤ 6 名 ⑥ 各回 2 回	⑤ 3 点 200 セット ⑥ 3 点 200 セット ⑦ 5 点 100 セット ⑧ 4 点 100 セット	・パネル展「あなたに知ってほしい”結核”のこと」 1) ①ぎふ清流文化プラザ 1F、②県図書館「案書交流サロン」 ・パネル展「あなたに知ってほしい結核のこと」 ③ショッピングセンター「マサ 21」 ④ぎふ清流文化プラザ ・複十字シール運動キャンペーン ⑤ショッピングセンター「マサ 21」 婦人会と協力し実施。袋にパンフレット「結核の常識 2024」、リーフレット「複十字シール運動」に啓発グッズ（入浴剤）をまとめたものを来客者に配布した。 ⑥ぎふ清流文化プラザ 袋にパンフレット「結核の常識 2024」、リーフレット「複十字シール運動」に啓発グッズ（ボールペン）をまとめたものを来館者に配布した。 ⑦子育てサロン「みなたん」 袋にパンフレット「結核の常識 2024」、リーフレット「複十字シール運動」に啓発グッズ（風船、絆創膏、シールぼうやのシール）をまとめたものを親子連れに配布した。 ⑧「ほっこり広場」 袋にパンフレット「結核の常識 2024」、リーフレット「複十字シール運動」に啓発グッズ（不織布マスク、入浴剤）をまとめたものを参加者に配布した。 ・広報物品の配布 ⑨県内小・中・高校、病院等に結核・呼吸器感染症予防週間ポスター及び「結核の常識 2024」を配布した。
静岡	9/21	1 か所	10 名	4 点 400 セット	1) アピタ静岡店 2) 結核の常識・リーフレット・ポケットティッシュ・絆創膏の広報資材を配布
愛知	① 9/24～9/30 ② 9/21	2 か所	① 4 名 ② 3 名	各 2 点 200 セット	①昭和区永金町事務所にて、懸垂幕 2 枚を提示するとともに、来所者に「結核の常識 2024」と「複十字シール運動リーフレット」を配布した。 ② 9/21 にあいち健康の森健康科学総合センターにおいて実施した健診の受診勧奨を目的とした講演会において、参加者に「結核の常識 2024」と「複十字シール運動リーフレット」を配布した。

結核・呼吸器感染症予防週間活動報告

都道府県	日付	開催数	係員	資材点数 セット数	報告(1)場所・(2)配布資材・(3)活動内容等
三重	9/25～9/30・10/13	2か所	2名	7点 350セット	<ul style="list-style-type: none"> ① 9/20～10/1 当支部の社屋壁面に懸垂幕を掲げた。 ② 9/25～9/30 三重県立図書館において、結核・呼吸器感染症予防週間ポスター及び複十字シール運動ポスターを掲示するとともに、結核の常識2024、小型シール、シールぼうやメモ帳、クリアファイル(2種類)を配布した。 ③ 10/13 津市健康まつりにおいて、複十字シール運動ポスターを掲示するとともに、結核の常識2024、複十字シールリーフレット、小型シール、シールぼうやメモ帳、クリアファイル(2種類)、風船を配布した。複十字シールがかわいい!と好評であった。 ④ 9/24、9/25 地元のテレビ局において、健診の重要性、結核・呼吸器感染症予防週間の周知及び結核の症状を周知するCMを2回放映した。 ⑤ 県、市町、医療機関、小中高等学校等に結核・呼吸器感染症予防週間ポスター及び結核の常識2024を配付した。
滋賀	① 9/1 ② 9/24	① 154か所 ② 1か所	② 4名	② 4点 264セット	<ul style="list-style-type: none"> ① 1) 各関係団体(県、市町、保健所、婦人団体等)への資料送付等 2) 結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポスター、複十字シール、シールセット 3) 各担当者へ募金活動も併せて行っていただくよう依頼し、当支部ではHPの更新および健診センター内や検診バスにポスターの掲示や受診者へリーフレットの配布と募金活動を行いました。 ② 1) JR大津駅 北口出入口付近 2) 資材セット(結核の常識、複十字シール運動リーフレット、複十字シール、付箋) 3) 「結核予防週間」のたすきをして、複十字Tシャツをスタッフ全員着用し、「結核をなくそう」ののぼりを立てた中、啓発資材セットの配布と結核・呼吸器感染症予防週間の周知を行いました。また、募金活動も併せて行いました。
京都	9/26	1か所	30名	6点 1,200セット	<ul style="list-style-type: none"> 1) イオンモール京都五条 2) 複十字シール(小型)・複十字シール運動リーフレット(本部作成)・複十字シール運動募金趣意書(当センター作成)・複十字シール運動募金振込用紙(当センター作成)・マスク(京都府作成)・絆創膏(京都市作成) 3) 京都府民・市民を対象に「結核の予防とがんを考えるつどい」を開催。 講演Ⅰ:「だんだん分かってきた呼吸器感染症～肺結核と肺MAC症について～」講師 独立行政法人国立病院機構近畿中央呼吸器センター 臨床研究センター 治療管理室長 小林岳彦 先生 講演Ⅱ「乳がん治療の現状と乳がん検診について～日々進歩する乳がん治療と正しい乳がん検診～」講師 京都府立医科大学 内分泌・乳腺外科 北野早映 先生
大阪	9/1～9/30	9か所	64名	9点 (ポケットティッシュ・うちわ・エコバッグ・タオル・結核の常識・ポスター・複十字シール運動リーフレット・メモ帳・シールぼうや小型シール)	<ul style="list-style-type: none"> ① 「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」(9/26) 1) JR天王寺駅中央コンコース 2) ポケットティッシュ3,000個、うちわ150枚、メモ帳300個、シールぼうや小型シール 3) 啓発用のぼりやパネルを設置し、当法人職員と大阪市地域女性団体協議会の総勢19名がシールぼうやと一緒に啓発グッズを配布し、普及啓発と複十字シール募金への協力を呼びかけた。 ② 「中央区健康展」(9/28) 1) 中央会館(大阪市中央区) 2) ポケットティッシュ500個、結核の常識100部、うちわ100枚、エコバッグ100個、タオル100枚、シールぼうや小型シール 3) 大阪市中央区主催のイベントにて、肺年齢無料測定会のブースの出展と同時に啓発用のぼりやパネルも設置し、シールぼうやと一緒に啓発グッズの配布を行った。 ③ 「結核・呼吸器感染症予防週間、複十字シール運動キャンペーン」(8/1、22、9/3) 1) 当法人正面玄関前 2) ポケットティッシュ300個、うちわ100枚、エコバッグ60個 3) 啓発用のぼりを設置し、シールぼうやと一緒に啓発グッズを配布した。 ④ 「街頭啓発キャンペーン」(9/17) 1) イオンモール茨木ジョイプラザ前 2) ポケットティッシュ500個、結核の常識500部、エコバッグ50個、タオル50枚、シールぼうや小型シール 3) 大阪府茨木保健所との共催で、茨木保健所管内の大型商業施設において啓発用のぼりを設置し、シールぼうやと大阪府のキャラクター「もずやん」と一緒に、啓発グッズを配布したり結核クイズを実施した。 ⑤ 「街頭啓発キャンペーン」(9/30) 1) 南海堺東駅前 2) ポケットティッシュ500個、うちわ50枚 3) 堺市主催の街頭啓発キャンペーンに当法人職員も参加。啓発用のぼりを設置し、シールぼうやと堺市のキャラクター「サカエくん」と一緒に啓発グッズを配布した。 ⑥ 「結核・呼吸器感染症予防週間啓発CM 大型ビジョン放映」(9/24～30) 1) LINKS UMEDA(大阪市北区:梅田)、トンボリステーション(大阪市中央区:道頓堀) 3) 当法人オリジナルの啓発CM(15秒)を制作し、大型ビジョンで放映した。 ・放映回数:(梅田)7:30～24:00 2回/時 (道頓堀)11:00～22:00 6回/時 ⑦ 「結核・呼吸器感染症予防週間啓発CM放映」(9/1～30) 1) 大阪モノレール車内モニター、茨木保健所管内の医療機関や施設など 3) 大阪府茨木保健所との共催で、茨木保健所制作のCM(30秒)を放映した。 ⑧ 「結核・呼吸器感染症予防週間啓発CM放映」(9/17～30) 1) 当法人館内ディスプレイ 3) 当法人制作のCMと茨木保健所制作のCMを放映した。 ⑨ 「ホームページ、X(旧ツイッター)への掲載」(8/1～9/30) 1) インターネット 3) 当法人ホームページに結核・呼吸器感染症予防週間についての特集ページを設け(8/26～)、結核の情報をはじめ、CM動画や各種イベント、啓発グッズなどの紹介をした。またX(旧ツイッター)でも、CM動画やイベントの実施風景などを随時掲載した。 ⑩ 「ポスター、啓発グッズ配布など」 府内各行政機関や医師会、当法人各事業所等にポスター、結核の常識、ポケットティッシュ、うちわ等を配布した。また、出張健診先(9か所)でも啓発用のぼりを設置し、ポケットティッシュを配布したり、当法人正面玄関前にオリジナルパネルを設置し、来館者や近隣の方に結核・呼吸器感染症予防週間の周知を行った。
兵庫	9/25 (13:30～16:00)	1か所	17名	2点 201セット	<ul style="list-style-type: none"> 1) 神戸ポートピアホテル借案の間 2) 結核の常識2024および複十字シール(小型シール)*セミナーの参加者201名に配付。 3) がん征伐月間との併催の位置づけとし、集客力と予算縮減の両立を図った。
奈良	9/24～9/30	5か所	30名	5点 500セット	<ul style="list-style-type: none"> ①奈良市保健所 1) 奈良市役所正面玄関(9/24～27)、はぐくみセンターウエルカムホール(9/30～10/4) 2) 結核の常識・ボールペン・カットパン等 ②県保健所 ・HP上にチラシを掲載し啓発 ・保健所内に、ティッシュやカットパン等を常時設置し啓発 ・商業施設で、結核の常識・ティッシュ・カットパン等を配布し啓発(ライブ大淀店) ※アンケートに答えていただき、結核の話も聞いてもらう。 ③奈良県結核予防会 2) 結核の常識・ティッシュ・カットパン・シール等配布 3) 県結核担当職員と、県内募金活動を実施

結核・呼吸器感染症予防週間活動報告

都道府県	日付	開催数	係員	資材点数 セット数	報告(1)場所・(2)配布資材・(3)活動内容等
和歌山	9/26	2か所	14名	3点 1,200セット	1) JR和歌山駅・南海和歌山市駅 2) 街頭啓発を実施(結核の常識・複十字シール運動パンフレット・啓発用ボールペンを配布) 3) 新聞広告による啓発または、地元ラジオによるスポットCMによる啓発、県内の各保健所による街頭啓発(県内8か所)
鳥取	9/22・9/28	3か所	37名	3点 600セット	1) 県内 東部地区「地場産プラザわたいな」 中部地区「パブルタウン」 西部地区「イオン日吉津店」の3か所 2) 全員:「リーフレット」「鳥取県の結核の状況」「結核を防ごうポケットティッシュ」 募金者:「複十字シール」「複十字シール募金用付箋」を配布 3) 鳥取県感染症対策センターの職員にも参加を依頼 (知事・知事夫人は日程の都合がつかず不参加)
島根	9/24～9/30	-	-	-	期間中、FMラジオ(FM山陰:島根県ならびに鳥取県の全県下で放送)にて1日3本ずつ20秒CMを放送しました。
岡山	①9/17～9/30 ②9/24～9/30	-	-	-	①ホームページ掲出 ②SNS掲出 当財団ホームページやSNSにおいて、結核予防に関する動画の紹介や認知度アップのための発信を行うなど、広く普及啓発を行った。
広島	8/1～12/31	6か所	延べ10名	11点	I-1) 広島県庁正面玄関横「ふれあい広場」 複十字シール募金箱設置 2) 複十字シール運動ポスターの掲示、リーフレット、複十字シール(大・小) II-1) 広島県健康福祉センター1階エントランスホール 複十字シール募金箱設置 2) 結核及び複十字シール運動ポスターの掲示、リーフレット、結核の常識2024 複十字シール(大・小) III-1) 広島県健康福祉センター貸会場受付 複十字シール募金箱設置 2) 結核の常識2024、リーフレット、複十字シール(小) IV-1) 9/21開催 市民公開講座「最新の肺がん外科治療」 2) 複十字シール運動リーフレット、複十字シール(大)配布 V-1) 広島県医師会館 2) 複十字シール運動リーフレット、複十字シール(小)設置 VI-1) 広島県歯科医師会 2) 複十字シール運動リーフレット、複十字シール(小)送付 VII-1) 広島市医師会 2) 複十字シール運動リーフレット、複十字シール(大)送付 3) 各関係団体に広報資料を配布し、結核への理解と募金活動への普及啓発を行った。 ・県内各市町・県内各関係機関(医師会・歯科医師会・婦人団体等) (広報資材) 結核・呼吸器感染症予防週間ポスター、複十字シール運動ポスター、結核の常識2024
山口	8/1～8/31	1か所	2名	7点	1) 山口県総合保健会館1階展示コーナー 2) 結核の常識、リーフレット
徳島	9/10	1か所	2名	3点 100セット	1) あわぎんホール(徳島市) 2) 結核の常識2024、複十字シール運動リーフレット、メモ帳 3) 「健康を考える県民のつどい」開催時に、リーフレットを配布するとともに、募金箱を設置し募金活動を実施した。
香川	9/8・9/19	2か所	4名	7点 150セット	1) 町主催健康まつり・胸部検診会場 2) 結核の常識・本部作成のメモ帳・当支部作成のポケットティッシュ・がん検診のチラシ3種
愛媛	9/24～9/30	1か所	愛媛県庁職員	12点 1セット	・左記日程において、愛媛県庁本館ドームを結核予防のシンボルカラーである赤色にライトアップ。 ・ライトアップの時間は、日没から21時。 ・県庁ホームページ等を活用し、結核を正しく理解し予防するにはどうすればよいかを考えていただくきっかけとした。また、感染症はコロナだけでなくも認識していただく意味も含めた啓発、周知を行なった。
高知	10/20	1か所	26名	3点 1,000セット	1) 高知市街地 帯屋町パラソール(中央公園北入口パラソル下) 2) 結核の常識・複十字シール運動リーフレット・啓発ポケットティッシュをビニール袋に入れ配布。お子様には風船と結核の情報を記載したシールぼうや・シールちゃんのぬりえを配布した。 3) 「シールぼうや」の着ぐるみのほか、高知県のマスコットキャラクター「くろしおくん」、県内で活動中のキャラクター「はりまとやばし」に協力いただき、啓発資材を配布した。 ・結核とがんに関するクイズを準備し、回答していただいた方には地場産品の懸賞が当たる抽選を行った。 ・デジタルサイネージにて結核・がんの啓発動画及び当協会の周知を目的としたCMを放映した。
福岡	9/23～9/30	6か所	①18名	①9点 500セット ②4点 ペンあり50 セット・ペン なし50セット ③右記参照	①街頭キャンペーン(9/23) 1) 福岡市中央区新天町商店街 2) 結核の常識、複十字シール運動リーフレット、小型シール(シールぼうや)、複十字シール運動募金趣意書、ポケットティッシュ、他がん検診啓発および予防リーフレット等を手提げ袋へ 結核・呼吸器感染症予防週間の呼びかけと、がん予防の啓発活動として、啓発資材を道行く人々にお渡しした ②福岡県庁ロビー展(9/24～9/30) 1) 福岡県庁の1階ロビー 2) 結核の常識、複十字シール運動リーフレット、小型シール(シールぼうや)、啓発用ボールペンをOPP袋へ 結核予防とがん予防の啓発活動としてポスターやパネルを展示し、資材を誰でも気軽に持ち帰りをいただけるようにした ③福岡PayPayドーム大型ビジョン放映(9/25・9/26) 1) 福岡PayPayドーム 福岡ソフトバンクホークスのホームゲームの際、大型ビジョンに結核予防週間キャンペーン開催について放映(ご厚意により放映料免除) ④ライトアップ (1) 赤煉瓦文化館(9/24～9/30) 福岡市中央区天神にある明治末期の本格的な煉瓦造建築物で、国の重要文化財に指定されている (2) 博多ポートタワー(9/27～9/30) 1964(昭和39)年10月にオープンし、今年開設60周年の節目を迎える博多港のシンボルタワーで展望室のほか、船舶が安全に航行できるように情報を提供する無線局が入っている (3) 旧福岡県公会堂 貴賓館(9/28～9/30) 福岡市中央区と博多区中洲を結ぶ「福博出合い橋」近くに建ち、数少ない明治時代のフレンチ・ルネサンス様式を基調とする公共建築物として、国の重要文化財に指定されている ⑤結核の常識・ポスター配付 保健所や医師会等の関係機関へ配付(結核の常識:27,403部 ポスター:5,230部)

結核・呼吸器感染症予防週間活動報告

都道府県	日付	開催数	係員	資材点数 セット数	報告(1)場所・(2)配布資材・(3)活動内容等
佐賀	9/23	2か所	20名	5点 2,000セット	1) 県内ショッピングセンター 2か所(モラージュ佐賀、ゆめタウン佐賀) 2) 結核の常識、複十字シール運動リーフレット、複十字シール、風船、はがき等を配布。 3) 無料で健康相談や血圧測定など実施し、当財団職員と県婦人会及び県庁職員の合同で結核予防及び募金の呼びかけを行った。
長崎	9/25～10/27	3か所	約20名	3点 900セット	①結核・呼吸器感染症予防週間街頭キャンペーン 1) 諫早市本町商店街ポケットパーク 2) 結核の常識、リーフレット、マスクの3点をセットにして配布。 3) 婦人会の方と協力し、募金活動を行った。のぼり旗や「複十字シール運動」、「結核・呼吸器感染症予防週間」ポスターを掲示し、募金をして頂いた方には、複十字シールやシールぼうやイラスト入りのカットパンやメモ帳、ボールペン等を配布した。 ②結核・呼吸器感染症予防週間から遅れてしまいますが、婦人会の方と協力し、10月17日に県庁で、10月27日に長崎スタジアムシティで募金活動を実施しました。
熊本	9/21	1か所	49名	6点 600セット	1) 9/21(土) ゆめタウンはまぜん3階催事場 2) 配布物 ①結核の常識②がん検診のリーフレット③女性のがんのリーフレット④「検診へ行こう」のチラシ⑤過去の複十字小型シール⑥当センターオリジナルポケットティッシュ 3) 熊本県健康を守る婦人会熊本支部および熊本県健康づくり推進課、健康危機管理課、熊本市健康づくり推進課及び健康危機管理課の皆さまとの活動 ・結核・呼吸器感染症予防週間ポスター・禁煙ポスター・啓発パネルの掲示、肺がん模型の展示、募金活動 ・血圧測定・健康相談 174名、体重・体脂肪測定 169名 ・ペジメータ(野菜摂取レベル測定) 168名 ・キッズコーナー:塗り絵、ペーパークラフト、風船の配布 ・当センターマスコットキャラクターそうぼくんの記念撮影 ・9月18日(水) TKUテレビ熊本「てれくまくん医療情報室」にて結核・呼吸器感染症予防週間をテーマに情報の発信を行うとともに、複十字シール運動や熊本城のライトアップについて案内した。 ・外国出生者の結核予防のため、YMCA日本語学校、国際交流会館、熊本ユニセフ協会の各事務局を訪ね、資材の配布をお願いした。
大分	-	-	-	-	9/24に街頭キャンペーンを予定していたが、天候不良のため中止
宮崎	9/10～9/28	2か所	25名	4点 600セット	1) ①宮崎市若草通り「街市」②イオンモール延岡 2) ①複十字シール運動リーフレット②結核の常識③啓発マスク④ラップ 3) その他 ・新聞広告(3社)に啓発記事の掲載をする ・県庁に懸幕を掲げた ・街頭キャンペーンの取材依頼
鹿児島	9/30 (15:00～15:45)	1か所	11名	3点 600セット	①1) 鹿児島中央駅東口広場前 2) 県結核成人病予防婦人会及び県職員の協力を得て、複十字小型シール・複十字シール運動リーフレット・ポケットティッシュを配布した。また、「結核・呼吸器感染症予防週間」「複十字シール運動」等のポスター、のぼり旗、結核に関するパネルなどを掲示し、結核予防の普及啓発ならびに複十字シール運動の周知を図った。 ②9/20～9/30に県庁2階にて、結核予防に関するパネルの展示や資料の設置を行った。また、同時期に県民総合保健センター内2階においても結核・呼吸器感染症予防週間のポスターの展示を行った。 ③県内の商業施設や病院、小中学校など400件以上の施設に結核・呼吸器感染症予防週間のポスター並びに「結核の常識」を配布した。 ④市内各所(アミュプラザ観覧車アミュラン(9/24・27)、西田橋・センテラス天文館(9/24～30))にて結核・呼吸器感染症予防週間のライトアップを実施した。

令和6年度結核・呼吸器感染症予防週間レポート

結核・呼吸器感染症予防週間にあたり、全国各支部で工夫を凝らした活動が行われました。

北海道



婦人団体の皆さまの協力を得て、札幌市内3か所で街頭募金を行った。結核予防の大切さをお伝えし、温かい募金をお預かりすることができた。この他、札幌駅地下歩行空間で「結核& COPD 予防普及啓発キャンペーン」、健診センター待合ホールでパネル展示を行った。

青森県



青森県結核予防婦人会の皆様の御協力を得て、青森市内ショッピングセンター2か所で街頭募金を行い、広報資材を配布した。結核予防や複十字シール募金への御協力を呼びかけ、昨年より多くの募金を皆様からいただいた。テレビ局・新聞社が取材に訪れ、放映・掲載された。

宮城県



宮城県庁ロビー及び仙台市青葉通地下道展示ギャラリー、当法人施設内にてパネル展示を行った。また、施設内窓口では「結核の常識」や啓発資材を配布し、結核・呼吸器感染症予防週間の周知を図った。

秋田県



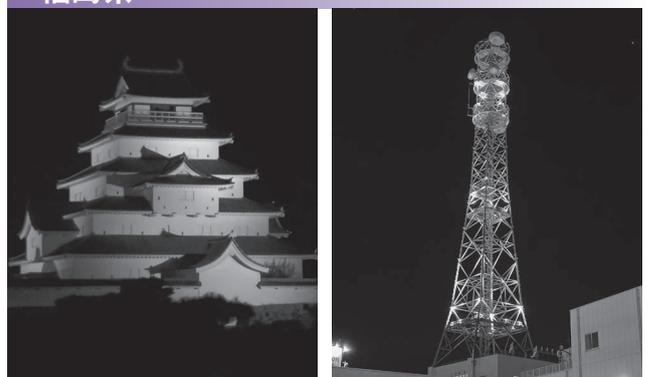
秋田駅東西連絡自由通路「ぼぼろ〜ど」と秋田駅前仲小路（大屋根下）にのぼりを設置。さらに、「ぼぼろ〜ど」ではパネル2台を設置し、キャンペーンの趣旨、ポスター、パンフレットを掲示した。今年は秋田県のPRキャラクター「んだッチ」も参加し、ポラロイドカメラと一緒に撮った写真をプレゼントした。子供たちには風船をプレゼントし、好評だった。

山形県



県主催のやまがた健康フェア2024に出展。結核の常識、複十字シール運動リーフレットを配布した他、県内関係機関にポスターの掲示を依頼し、普及啓発活動を行った。期間中は山形検診センターのライトアップも実施した。

福島県



結核・呼吸器感染症予防週間に県内のランドマークに結核予防のシンボルカラーである「赤色」のライトアップを実施し、結核予防の普及啓発を行った。①会津鶴ヶ城：9月24日（火）～30日（月）日没～21時②東北電力ネットワーク福島電力センター：9月24日（火）～30日（月）18時～22時③東北電力原町火力発電所：9月24日（火）～30日（月）日没～21時。②については、9月25日付の福島民報新聞社に掲載された。

茨城県



茨城県・保健所及び茨城県健康をまもる女性団体連絡会との共催により、県内3か所で街頭キャンペーンを実施した。県民に広く結核・呼吸器感染症予防に対する正しい知識や健診の重要性を知っていただくための呼びかけを行うとともに、「結核の常識2024」等の啓発資材を配布した。

栃木県



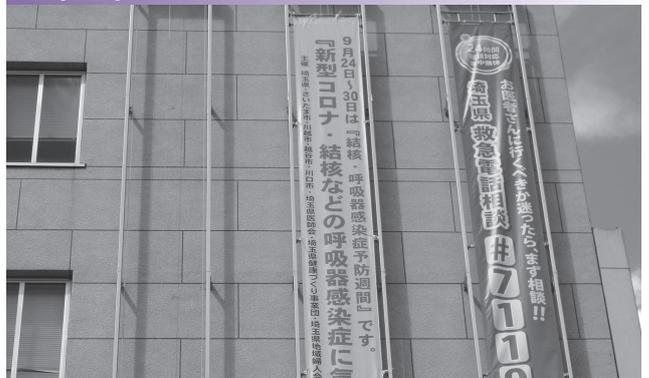
婦人会のご協力もあり、用意していた資材を全て配布することができた。展示したパネルを立ち止まって見ていただいた方もいて、結核に関する正しい知識や検診の重要性について興味をもってもらうことができた。

群馬県



男女共同参画フェスティバルの来場者に結核の現状や予防法について説明し、広報資材を配布して、多くの方に受け取っていただいた。9月24日(火)～30日(月)の期間、(29日を除く)国指定重要文化財である臨江閣のライトアップを行った。

埼玉県



埼玉県庁本庁舎に懸垂幕、支部施設に横断幕を掲出し、広く県民等へ結核・呼吸器感染症の予防を呼びかけた。

千葉県



千葉そごう前広場にて、複十字シール運動募金協力と結核・呼吸器感染症予防の啓発を呼びかけ、普及啓発資材を配布した。千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」と財団マスコットキャラクター「けんしー」が会場に登場し、併せて市民楽団による『小さなシールに大きな愛を』を含む数曲の演奏を2回実施した。

東京都



秋葉原電気街にあるUDX サボニウス広場において、東京都感染症対策部防疫課及び東京都地域婦人団体連盟の方と共に「長引く咳は赤信号(東京都作成)」・「結核の常識2024」・「シールぼうやボールペン」・「風船」・「複十字シール運動リーフレット」をセットし通行人に配布した。休日の電気街は買い物客や外国人観光客も多く、用意したキャンペーングッズも配布することができ、正しい結核の知識について広める活動ができた。

神奈川県



複十字シール運動ポスター、結核・呼吸器感染症予防週間ポスターを絵画用イーゼル台に乗せて海老名駅前自由通路に設置。スタッフも4グループに分かれて募金活動を実施した。当日は晴天に恵まれ蒸し暑く、ウエットティッシュを同封していた事もあり用意した1,000セットは時間内に全て配布することが出来た。

山梨県



天候にも恵まれ、関係機関の協力のもと啓発と共に予定していた数の資材配布が実施できた。メディアからの取材により広く県内全域に「結核・呼吸器感染症予防週間」の周知と予防に対する喚起ができた。

長野県



長野県、長野県連合婦人会、結核予防婦人会長野県連合会と共催の「信州婦人健康のつどい」において、複十字シール募金の実施と普及啓発資材を配布した。マスコットのシールぼうやも一緒に活動し、参加者からの注目を集めた。

新潟県



9月14日(土)アオーレ長岡で行われた「すこやか・ともしいまつり」にて、リフト機能付き胸部検診車の試乗体験、結核の常識等リーフレットの配布、募金活動を行った。検診車の試乗体験では、100名以上の方が参加され、リフトで検診車内にご案内し、検診車内の説明や胸部レントゲン写真の説明等を行った。

富山県



富山市総曲輪のグランドプラザ付近にてPRを実施した。ご協力いただいた婦人会の皆様のご尽力もあり無事に活動を終えることができました。また、バルーンパフォーマンスに親子連れが興味を持って集まり、同時にPR活動もできました。

石川県



石川県政記念しいのき迎賓館にて、結核の常識2024、複十字シール運動リーフレット、啓発グッズ等を配布し、複十字シール運動への協力を呼びかけた。

福井県



アルプラザ鯖江にて、福井県健康を守る女性の会および県職員と協力して結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、風船を配布し募金活動を実施した。

岐阜県



街頭で結核の啓発活動を行っている時、「親が結核で亡くなっている」、「私も結核に罹ったことがある」と声をかけられ「まだ結核で苦しんでいる人がいたのか」と悲しまれる姿があった。婦人会が街頭活動の前に、事前に結核の勉強会を開催して参加してくれたことで、積極的に結核の現状について、通行人に声掛けする姿が見られた。

静岡県



アピタ静岡店においてご来店のお客様を対象に、結核の常識・ポケットティッシュ等の広報資材を配布し、結核及び呼吸器感染症予防の啓発活動を行った。

三重県



津市健康まつりにおいて、複十字シール運動ポスターの掲示、結核の常識2024、小型シール等を配布した。この他、三重県立図書館で結核・呼吸器感染症予防週間ポスター及び複十字シール運動ポスターの掲示と結核の常識2024や小型シール等の配布をし、社屋壁面に懸垂幕を掲げた。

滋賀県



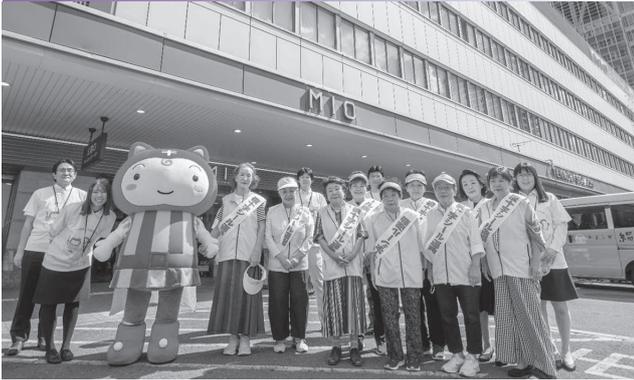
複十字シール運動の一環として、朝の通勤通学等で駅を利用する市民の皆様に、結核に関するリーフレットを配布し、「結核・呼吸器感染症予防週間」の周知にあわせ、結核予防のご理解と募金運動のご協力をお願いした。

京都府



京都府・京都市・女性会の御協力のもと、イオンモール京都五条にて来館者に啓発資材の配布を通して結核予防の普及啓発を行った。また、無料の結核検診も実施。

大阪府



JR 天王寺駅中央コンコースにて、当法人職員と大阪市地域女性団体協議会の総勢 19 名がシルぼうやと一緒にポケットティッシュなどの啓発グッズを配布し、普及啓発と複十字シル募金への協力を呼びかけた。

兵庫県



平成 29 年度より実施している「がん・結核セミナー」を今年度も神戸ポートピアホテルで開催し、201 名の参加があった。会場内では複十字シル運動募金のブースを設け、募金活動を実施した。

和歌山県



和歌山県・和歌山市・和歌山県健康を守る婦人の会と合同で、JR 和歌山駅前及び南海和歌山市駅にて、街頭啓発を実施した。また、県内の各保健所管内（8 か所）においても街頭啓発を実施しております。

鳥取県



鳥取県健康を守る婦人・鳥取県感染症センター協力のもとキャンペーンを実施した。東部地区は初めての会場での実施だったが、多くの買い物客に周知することが出来た。

岡山県



昨年に引き続き、SNS 等を利用した普及啓発活動を計画した。また、当支部ホームページにも予防・呼吸器感染症予防週間について紹介したページを掲載し、動画や啓発資材を掲載するなどして、閲覧者に対して普及啓発ができるように取り組んだ。
*編集注) 左側は Instagram, 右側は Facebook のスクリーンショット

広島県



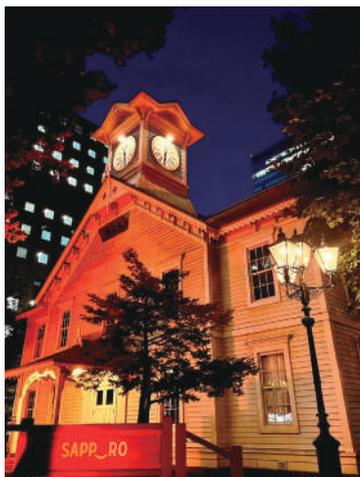
広島県庁正面玄関横「ふれあい広場」において、複十字シル運動ポスターを掲示、リーフレットの配布と募金箱の設置を行った。また、県・市・区医師会の市民公開講座等において、複十字シル運動リーフレット等を配布し、募金活動の普及を行った。

令和6年度結核・呼吸器感染症予防週間 ライトアップ

全国都道府県支部や自治体にご協力いただき、全国各地で「赤」のライトアップが行われました。赤は、結核対策のイメージカラーです。



北海道



札幌市時計台

岩手県



金ヶ崎町役場

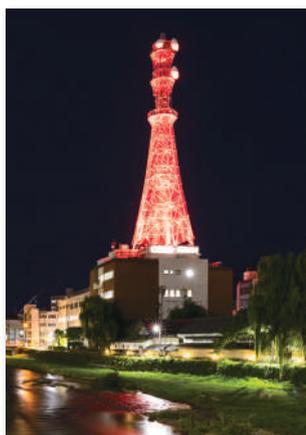


Big Waffle(支部建物)

宮城県



複十字健診センター(支部建物)



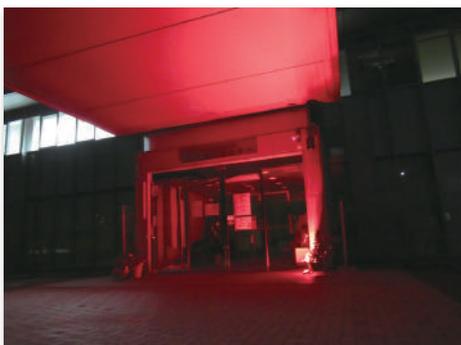
東北電力ネットワーク岩手支社
マイクロ波無線鉄塔



開運橋

福島県

山形県



山形検診センター(支部建物)



会津鶴ヶ城



東北電力ネットワーク
ふくしま電力センター

栃木県



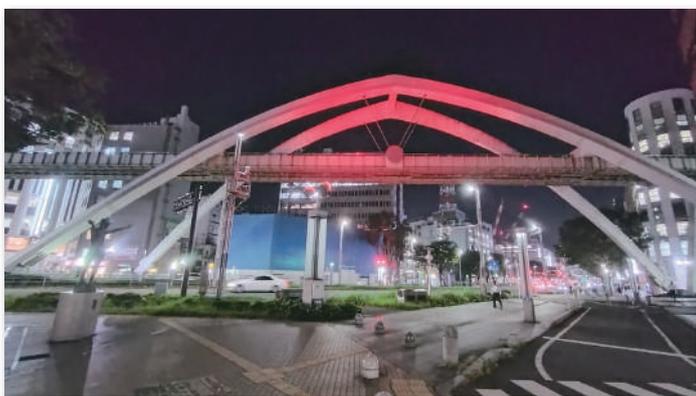
栃木県庁昭和館

群馬県



臨江閣

千葉県



千葉市中央公園・千葉都市モノレールセントラルアーチ



ちば県民保健予防財団(支部建物壁面)

神奈川県



神奈川県庁本庁舎



横浜市役所



川崎市役所



藤沢市・江の島シーキャンドル

東京都



東京都庁第一庁舎



スカイタワー西東京(笹川功様撮影)



清瀬市役所

隅田川橋梁群



吾妻橋



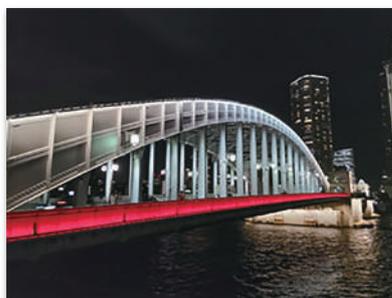
駒形橋



清洲橋



佃大橋



勝鬨橋



築地大橋

熊本県



熊本城

愛媛県



愛媛県庁本館ドーム

佐賀県



佐賀メディカルセンタービル(支部建物)

福岡県



旧福岡県公会堂貴賓館



博多ポートタワー



赤煉瓦文化館

鹿児島県



アミュプラザ鹿児島アミュプラザ観覧車



高見橋



センテラス天文館

注) ライトアップの実施期間や時間帯は地域によって異なります。

令和6年度結核予防技術者地区別講習会実施報告

○講習会テーマ

合同講義（厚生労働省）
 合同講義（結核予防会）
 臨床講義
 療養支援講義

最近の結核対策の動向を踏まえた今後について
 結核低蔓延化の進む一方で様々な結核患者の課題に対処する結核対策
 結核の診断と治療のおさらいと最新情報
 結核における患者中心の服薬支援の基本と地域を基盤とした支援の推進

○開催地・講師一覧

開催地	日程	担当講師
北海道	7月12日(金)～ 7月11日(木)	合同講義(厚生労働省)：越後屋百合(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課課長補佐) 合同講義(結核予防会)：加藤誠也(結核研究所所長) 臨床講義：御手洗聡(結核研究所抗酸菌部部长) 療養支援講義：浦川美奈子(結核研究所対策支援部技術専門役)
東北(岩手県)	7月19日(金)～ 7月18日(木)	合同講義(厚生労働省)：亀谷航平(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課課長補佐) 合同講義(結核予防会)：太田正樹(結核研究所対策支援部部长) 臨床講義：吉山崇(結核研究所企画主幹) 療養支援講義：座間智子(結核研究所対策支援部保健看護学科科長)
関東・甲信越(神奈川県)	8月9日(金)～ 8月8日(木)	合同講義(厚生労働省)：亀谷航平(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課課長補佐) 合同講義(結核予防会)：太田正樹(結核研究所対策支援部部长) 臨床講義：平尾晋(結核研究所対策支援部企画・医学科科長) 療養支援講義：座間智子(結核研究所対策支援部保健看護学科科長)
東海・北陸(岐阜県)	7月5日(金)～ 7月4日(木)	合同講義(厚生労働省)：亀谷航平(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課課長補佐) 合同講義(結核予防会)：加藤誠也(結核研究所所長) 臨床講義：吉山崇(結核研究所企画主幹) 療養支援講義：座間智子(結核研究所対策支援部保健看護学科科長)
近畿(兵庫県)	8月23日(金)～ 8月22日(木)	合同講義(厚生労働省)：亀谷航平(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課課長補佐) 合同講義(結核予防会)：太田正樹(結核研究所対策支援部部长) 臨床講義：平尾晋(結核研究所対策支援部企画・医学科科長) 療養支援講義：座間智子(結核研究所対策支援部保健看護学科科長)
中国・四国(徳島県)	7月26日(金)～ 7月25日(木)	合同講義(厚生労働省)：越後屋百合(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課課長補佐) 合同講義(結核予防会)：大角晃弘(結核研究所臨床・疫学部部長) 臨床講義：御手洗聡(結核研究所抗酸菌部部长) 療養支援講義：浦川美奈子(結核研究所対策支援部技術専門役)
九州(長崎県)	8月2日(金)～ 8月1日(木)	合同講義(厚生労働省)：亀谷航平(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課課長補佐) 合同講義(結核予防会)：太田正樹(結核研究所対策支援部部长) 臨床講義：平尾晋(結核研究所対策支援部企画・医学科科長) 療養支援講義：永田容子(結核予防会事業部部长(兼)結核研究所対策支援部主任研究員)

*所属は開催当時

北海道地区

北海道保健福祉部感染症対策局
 感染症対策課
 主査(感染症) **今哲也**

北海道地区では、7月11日及び12日に、参集形式で開催し、道内の保健所、市町村、医療機関、関係団体から約80名のご参加をいただきました。

全ブロック共通の結核研究所や厚生労働省による講義の他、結核対策特別促進事業等の報告・評価において、留萌記念病院看護部長・感染管理認定看護師の日野陽子様から、「大切な外国人職員が安心して働けるために-結核の早期発見の取り組みについて-」と題して、結核高まん延国出身の外国人職員の入職時に

IGRA検査を行うことなどについてご報告いただきました。また、札幌市保健所保健師の梅澤朋美様及び宮本彩加様から、「札幌市における結核対策の普及啓発」と題して、高齢者施設や医療機関に向けた結核対策の普及啓発の取り組みなどについてご報告いただきました。

いずれの講義・報告も、今後の結核対策に役立つ大変有意義な内容でした。

東北地区（岩手県）

岩手県保健福祉部
医療政策室感染症担当

技師 松村 実沙樹

東北地区は、7月18～19日にニューヨーク・タイムズ紙「2023年行くべき52カ所」に選ばれた盛岡市を会場とし講習会を開催しました。講習会には、約140名の方々に参加いただきました。

当県は2023年結核罹患率が3.6と最も低い県になりましたが、全国と同様に外国生まれの結核患者の割合が増加傾向にあります。そのような状況を踏まえ、結核対策特別促進事業の報告・評価では、「外国生まれの結核患者」をテーマに企画しました。盛岡市保健所からは「外国出生患者への結核対策－留学生の集団発生事例から見えた課題－」、宮古保健所からは「退院と同時に帰国した外国人技能実習生結核患者への支援について～岩手県宮古保健所での対応事例を通して～」、川口市保健所からは「日本語学校に対する効果的な結核教材の開発～漫画を用いた健康教育活動への挑戦～」と題して発表いただきました。今後の東北地区の結核対策に生かすことができる内容でした。

また、結核研究所の先生方からは、結核の基本から最新情報まで幅広く講演いただき、改めて結核対策に役立つ大変有意義な内容でした。

講師の先生方、参加いただきました皆様、開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様へこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

関東・甲信越地区（神奈川県）

神奈川県健康医療局保健医療部
健康危機・感染症対策課

主事 吉田 恵美子

関東・甲信越地区は、神奈川県が主催となり、令和6年8月8日から9日の2日間にわたり、横浜市内にて開催しました。昨年度と同様に、会場開催及びオンライン配信によるハイブリッド形式を用いて実施し、約480名（会場約100名、オンライン参加約380名）の方にご参加いただきました。

厚生労働省及び結核研究所より講師をお招きし、国の結核対策の動向から、結核患者支援の基本講義、診断・治療にかかる最新情報などをご講演いただき、結核対策の理解をより深めることが出来ました。

また、結核対策特別推進事業等の報告においては、本県の厚木保健福祉事務所大和センターより「海外の接触者健診後に結核を発症した外国出生児への保健所の関わり」、神奈川県衛生研究所より「神奈川県における結核菌の分子疫学調査」、当課より「あらためて疫学調査の重要性について～効果的な結核対策のために～」について報告いたしました。県内の患者支援及び疫学調査の実態を発表させていただき、参加者の皆様との意見交換を行う良い機会となりました。

最後になりましたが、当講習会開催に際し、ご協力いただきました講師の先生方、各自治体の結核対策担当の皆様、関係者の皆様へこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

東海・北陸地区（岐阜県）

岐阜県健康福祉部
感染症対策推進課

主任 門脇 光佑

東海北陸地区では、岐阜県が開催県となり、7月4日～5日の2日間で行い、県内外の行政機関、医療機関等から170名の方々に参加いただきました。

結核研究所、厚生労働省の先生方から結核の基本的な知識や最新の情報について御講演いただき、結核対策への理解をより深めることができました。

また、結核対策特別促進事業等の報告・評価では、岐阜県西濃保健所から「日本語学校における結核集団感染事例～事例を通じて考える結核対策～」、静岡県富士保健所から「LTBI治療中に発症した外国人患者の事例について」、川口市保健所から「日本語学校に対する効果的な結核教材の開発：漫画を用いた教育活動への挑戦」と題して御報告いただき、今後の結核対策の参考になるものでありました。

最後になりますが、本講習会において、御講演及び御指導をいただきました結核研究所及び厚生労働省の方々、御協力いただきました関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。

近畿地区（兵庫県）

兵庫県保健医療部
疾病対策課

副主任 師井 佳奈子

近畿地区は、兵庫県が開催県となり、8月22日から23日に開催し、近畿各地から、延べ366名の方にご参加いただきました。

講習会では、結核研究所と厚生労働省の先生方から、最新の知見等についてご講演をいただきました。

結核対策特別促進事業等の報告・評価においては、兵庫県明石市から「明石市における結核対策～高齢者に実施したIGRA 結果を含めて～」をご報告いただき、本県から「乳幼児の服薬継続に向けた取り組み～関係機関との連携による支援体制の構築～」、「当研究所の結核菌検査について」を報告いたしました。

結核行政担当者会議では、各府県市が抱えている課題等について情報交換することが出来ました。

近畿地区は結核罹患率の高い地域ですが、この講習会の内容を実践に繋げ、罹患率の低減につながることを願っています。

最後に、講師の先生方、結核特別対策促進事業等の報告をお引き受けくださいました皆様及び関係者の皆様に心より感謝いたします。

中国・四国地区（徳島県）

徳島県保健福祉部
感染症対策課

主任主事 細井 玲

中国・四国地区は、徳島県が開催県となり、7月25日～26日に開催したところ、県内外の医療機関、行政機関等から約70名の方々に御参加いただきました。

結核研究所と厚生労働省の先生方からは、結核に関する基礎知識、最新の知見や動向等について、今後の結核対策の一層の充実に繋がる内容を御講義いただきました。

また、結核対策特別促進事業等の報告・評価では、

三好保健所から「徳島県における医療機関との連携～症例検討会を通じた関係づくり～」、高知市保健所から「高知市保健所における高齢者結核患者の支援について」、豊橋市保健所から「外国人への結核対策」について、今後の結核対策に役立つ有意義な内容を御報告いただきました。

最後になりますが、御講演いただきました講師の先生方、結核特別対策促進事業等の報告を快くお引き受けくださいました皆様、開催にあたり御協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

九州地区（長崎県）

長崎県福祉保健部
地域保健推進課

主任技師（保健師） 窄口 広大

九州地区では、長崎県が開催県となり8月1日～2日に開催いたしました。

講習会には、127名の方にご参加いただきました。

結核研究所と厚生労働省の先生方からは、結核に関する基礎知識や患者支援の基礎、最新の結核対策の動向等についてご講演いただき、結核対策への理解を深めることができました。

結核対策特別促進事業等の報告・評価では、長崎県環境保健研究センターから「長崎県における結核菌の分子疫学解析について」、静岡県富士保健所から「LTBI治療中に発症した外国人患者の事例について*」、宮崎県福祉保健部薬務感染症対策課から「外国人出生者に対する結核対策について」のご報告をいただきました。

また、行政担当者会議では、外国出生者の結核対策を中心に各自治体の取組みや課題等について情報交換を行いました。

最後になりますが、ご講演いただきました講師の先生方、結核対策特別促進事業等の報告を快く引き受けてくださいました皆様、開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

*本号の結核対策活動紹介に同テーマでご寄稿いただきました。



静岡県富士保健所医療健康課

技師 常盤 紗弓

【はじめに】

今回、LTBI治療中の外国生まれの患者が結核を発病した。服薬支援及び治療中の対象者の体調が悪化した際の対応における保健所の課題を振り返り、今後の患者支援の一助とする。また、事例を通し出てきた課題に対し行った保健所の対応について報告する。

【事例】

ネパール出身の20代男性（以下A氏）。令和4年5月に日本へ入国し、日本語学校へ入学した。同時期に入学した学生が令和4年6月に肺結核と診断され喀痰塗抹陽性が判明したため、その学生の接触者としてA氏にIGRA (T-SPOT) 検査を実施し、陽性であった。胸部レントゲン検査結果に異常がなかったため10月12日にLTBIと診断されINH単剤の6か月治療が開始された。

服薬開始約3か月後の令和5年1月から食欲不振等の体調不良が続き、学校を休みがちとなった。受診する数日前には立つこともままならなくなり、学校職員の付き添いで2月14日に治療中の医療機関とは別の医療機関を受診した。その後、帰国予定であったが搭乗許可が下りず、市内の病院に受診しそのまま入院となった。翌日、学校から保健所あてに連絡が入り、別の医療機関へ受診していたこと、帰国予定であったこと、現在入院中であることを保健所が把握した。2月21日に喀痰塗抹陽性が判明し粟粒結核と診断された。

【これまでの支援と課題】

1. 服薬確認の方法

保健所が患者支援を行う中での課題には、まず服薬確認の方法がある。今回、初発患者の接触者健診では、A氏を含む51人中17人がLTBIと診断され内服を開始した。DOTSは、17人全員が同じ日本語学校であったため、月1回の学校訪問で1人1人と面談し、服薬ノー

トと空ヒートの確認を行っていた。毎日きちんと飲んでいる学生がいる一方で、空ヒートが確認できず口頭確認のみとなる学生もいた。A氏についても服薬開始後1か月目、2か月目の服薬確認は、口頭確認となり、2か月目にまとめて空ヒートを確認したが約1か月分少ない状況であり、確実な内服の確認ができていなかった。

服薬開始時に、保健所から学校の担当職員へ服薬の必要性や今後の保健所の関わりについて説明を行ったが、対象の学生には学校職員からの説明となったため、結核の知識や治療の必要性について本人たちの理解が十分に得られなかったと考えられる。母国語のパンフレットの活用や通訳者の同席、翻訳機の使用など本人たちの理解度に合わせた丁寧な関わりが必要であった。

また、口頭確認だけでなく、実際に後日メール等で空ヒートの写真を送ってもらったり、訪問の頻度を高くし再確認に伺うなど、同じ所属先に複数の患者がいる場合にも一律の確認方法とせず、個々の状況についてアセスメントをした上での服薬支援が必要であった。

また、服薬管理は学生の自己管理となっていたが、確実に服薬を確認するためには、授業開始前に職員の目の前で内服してもらうなど、日々学生と関わりのある学校職員の協力を得ることが不可欠であった。協力をお願いするにあたっては、学校との関係性を築いていくことも重要であるとする。

2. LTBI治療中の体調不良者への対応

2つ目の課題はLTBI治療中に発病した患者への対応についてである。今回の事例では、治療開始後まもなく体調不良となった際、主治医とは別の医療機関を受診し、LTBI治療中であることが伝えられていなかった。また、搭乗許可が下りず市内に戻り入院した際に

もLTBI治療中であるという情報が病院に伝えられておらず、翌日保健所から入院先の病院に連絡しLTBI治療中であることが把握された。そのため病院では活動性結核発病の可能性を念頭に置いたアイソレーション等の院内感染防止対応が遅れたことが問題であったと考える。治療中の患者が体調不良を起こした際には、保健所が速やかに把握し早期の受診につなげられるよう、学校と事前に有症状時の対応を共有しておく必要があった。

【保健所の対応】

今回の事例を受けて、学校の管理職を対象に、結核の基礎知識、治療、保健所が行うDOTS、学校内での患者及びLTBIの発生状況について説明する機会を設けた。加えて、服薬中の学生が体調不良となった場合の対応についても共有した。有症状者の早期受診の勧奨、病院とのコミュニケーションの問題があるため受診時の付き添いと結核治療中であると伝えていただくこと、これらについて保健所への連絡などの協力を依頼した。

次に、入学時の胸部X線検査の実施について、この日本語学校は4月、7月、10月、1月と年に4回入学するタイミングがあるが、全学生一律10月に実施していた。肺所見の早期発見のため入学直後の実施をお願いした。また、初年度の実施以降、胸部X線検査を実施していなかったため、在学生についても年に1回の実施をお願いした。

また、服薬管理について、学生たちが服薬を継続できるためにはどのような支援体制にしたらよいか、学校側に協力いただける部分はあるか話し合いを行った。LTBIの学生達の治療終了後、新たに結核患者が発生したため、その学生達の服薬について、職員の目の前で内服を確認してもらうこと、内服後の空ヒート

を職員側で回収いただき保健所が確認することなどの協力を得られることになった。協力をお願いするにあたり、患者ごとに治療開始日、治療終了予定日、現在飲んでいる薬の種類と写真、1日何錠ずつ飲むかなどが一覧でわかるように名簿を作成し学校へ送付した。

【事例を通して感じた外国生まれ患者支援の難しさ】

外国生まれの患者はまず言語の壁が大きくあり、日常会話はできて服薬の必要性も理解しているように思われても、実はこちらからの問いかけがうまく伝わっていなかったり、治療方針等の説明が適切に理解できていなかったりすることがある。また、文化や価値観の違いによるコミュニケーションのすれ違い、難しさもある。今回はLTBIの事例だったが、発症する前に予防的に薬を飲むという概念がない国も多く、症状もないのに薬を飲み続ける必要性が理解されにくいと感じた。また、生活費のため授業以外の時間をアルバイトに費やしている、というような学生も多く、受診よりも授業やアルバイトを優先する患者もいる。外国生まれの患者については、どうしても言語の課題に視点が向いてしまいがちだが、その国の文化や社会的背景、その人の人間性や性格等、患者自身に視点を向けた関わりを大切に丁寧なコミュニケーションをとることが重要だと感じた。

【まとめ】

外国生まれの患者への服薬支援では、保健所や医療機関からの支援だけでなく、本人が所属するコミュニティの協力を得ることと丁寧なコミュニケーションが重要であると強く感じた。

今年度、別の日本語学校の学生に服薬支援を行う予定である。本人及び所属先と密に連絡を取り対応を工夫しながら本事例で得られた経験を活かし、関わっていきたい。🐾

第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会 会長特別企画1 結核 病める人の視点—結核病学会百周年を記念して—（その1）

結核予防会

理事長特別参与 工藤 翔二

本稿は、第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会（迎
寛会長，長崎市，2024年5月31日）における講演内容
を本誌掲載のために書き直したものである

樋口一葉，正岡子規，石川啄木，そして瀧廉太郎



図1

R. コッホによって結核菌が発見される30年以上前、幕末に出版されたイギリス人B.ホブソンによる『内科新説』中で、「英米両国では、病死者100人のうち30人は^{ろうしやう}労證（註：結核のこと）による」と書かれている（11/2020 複十字No.395）。明治になって、欧米から数十年遅れて始まった日本の産業革命の中で、結核は急速に広がっていった。この頃の結核による死亡は、全死亡の10~15%といわれる。青木國雄先生によれば（第70回結核病学会総会）では、明治19年（1886年）から明治33年（1900年）までの14年間、毎年3万人から7万人が結核で亡くなっている。ちなみに、日清戦争では1万3千人余り、日露戦争では8万5千人余りが亡くなっている。それと比べても、当時の結核が、いかに国民に恐れられていたかがわかる。

2015年度のACジャパンの支援を受けた結核予防会のポスター（図1）には、結核で命を奪われた樋口一葉，正岡子規，石川啄木，そして瀧廉太郎の4人の姿がある。

明治29年の春ごろから、病気が進行していた樋口

一葉は、7月には39度の発熱がみられるようになり、『大かたの人にはあはで過ぎしてし、やまひの床に秋は来にけり』の一首を遺して、この年の晩秋11月に享年24歳で亡くなった。

正岡子規は、21歳の時に初めて咯血。以後、死ぬまで結核と向き合ことになる。鳴いて血を吐くといわれる「ホトトギス」に自身をなぞらえ、俳号をホトトギスの別名である“子規”と名乗る。『痰一斗糸瓜の水も間にあはず』。明治36年、36歳で亡くなった子規の句である。次々と湧き出るような痰。当時、ヘチマの水は去痰薬として用いられていた。

石川啄木は、25歳，明治44年4月に肺結核を発症。



図2

翌年3月に母が肺結核で死去，啄木も母の後を追うように，同年4月13日妻と父，若山牧水に看取られながら、『^い呼吸すれば胸の中に^{こがらし}鳴る音あり，^{こがらし}風よりもさびしきその音』の一首を遺して亡くなった。享年26歳であった。

私は、この早世した3人の明治の文豪が結核で斃れたことは知っていたが、瀧廉太郎が、結核で亡くなったことは最近まで知らなかった。まして、亡くなるわずか4か月前に、渾身の力を振り絞ったであろう、わずか3分余りの『憾』と名付けられたピアノ曲（図2：『憾』自筆稿の冒頭部（上）と終結部（下），海老沢敏「瀧廉太郎」岩波新書より）が遺されていることは、まったく知らなかった。海老沢氏による岩波新書には、ピ

アノ曲『憾』について詳細な記載がある。『憾』は誰かへの恨みではなく、自らの人生への悔い、『憾』であるとされている。廉太郎のお墓のある大分県日出町の公式チャンネル (<https://www.youtube.com/watch?v=KxSoqe9L13o>) から、是非聴いていただきたい。

結核は、人生や死生観に影響を与え、明治中期、結核のために離別させられた若き夫婦の情愛を描いた徳富蘆花の『不如帰』を嚆矢として、結核文学とも言うべき多くの作品を生み出した。私が、『文学』というべきものの中で、結核に初めて触れたのは、小学生の時に読んだ下村湖人の『次郎物語』であった。「肺の病氣」で臥せる次郎の母、民。毎日飲む鶏肉スープに飽きた母に、牛肉のスープを飲ませようと、村を訪れる肉売りから小遣いをはたいて、牛肉を買う小学生の次郎があった。民の「肺の病氣」が結核であることを私が理解したのは、ずいぶん後のことである。小学校に上がる前、私の母は当時の言葉で“肋膜炎”と“肺浸潤”を患って離れのベッドに寝ていた。そんな母の傍らにいつもくっついていた私は、『次郎物語』の次郎と民の情景が、幼い自分と母の姿と重なって、心に刻まれたのだろう。

『佐藤信英全歌集 あなたへ』

最初に紹介する作品は、私とは16歳も年の離れた同期の畏友、佐藤信英医師の亡き後、栄子夫人が編纂した一万首を超える『佐藤信英全歌集 あなたへ』(図3, 2022年, 同時代社)である。佐藤医師は療養を始めて間もなく、18歳で『アララギ』に入会し、生涯にわたって歌を詠み続けた。私は、栄子夫人の依頼で、800数十頁に及ぶこの『佐藤信英全歌集』の冒頭に、彼の結核と当時の結核医療について、10頁ほどの前書きを書かせていただいた。

佐藤医師は、既に太平洋戦争が始まっていた昭和17年の秋、旧制東京高校の1年生のとき、16歳で結核を発症した。昭和17年は私が生まれた年である。当時

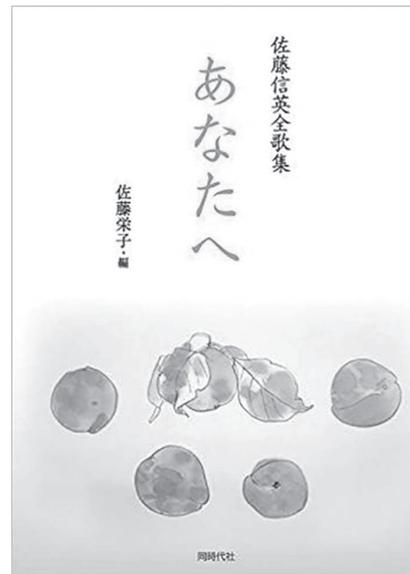


図3

平塚療養所に入院する(図4:平塚療養所にて両親と)。数か月で改善して退院するが、半年後には再発。以来、15年の間、自宅で療養生活を送ることになる。

昭和19年、20年頃の歌には、自己犠牲的に^{いたわ}り続ける母への思いとともに、病める我が身の不安と死への恐怖、平塚療養所で共に過ごした友の死、そして戦



図4

時下での何も為すことのできない、やるせなさを描いた歌が数多く見られる。彼は、軍国少年ではなかったが、学徒動員が始まっていたこの時期、戦地に赴く友や同世代の若者とわが身を、いやが上にも見比べざるを得なかったのだろう。『いたすらに子等の平癒とのみ願ふ母を思ひて今日も涙せり』、『寒夜更けて目覚めて居れば死を怖るる』、『海辺きサナトリウムに逝きし少年の淋しき面影は忘れなくに』、『たたかひに出で征く友の多くなりて秋深みたり十月といへば』、『たたかひは四歳続きぬ二歳と吾は病

み臥して過し来れり』。

昭和20年8月に終戦を迎えた国は焦土と化し、国民は疲弊していた。その中で彼の病状は悪化していった。当時の歌からは、繰り返す咯血と病巣の拡大に、死を感じながら暗闇に身を置く、一人の青年の孤独が伝わってくる。そして、自らに注がれる母の無償の愛。一方で、苛立ちの中にある父や姉。自らを蔑む心と、26歳まで生きた自分は「幸せ」と自らに言い聞かせる、心の揺れる様が歌われている。(咯血)『つひにみんな血ふくむよ苦しみよあはれと言ひて母涙す』、『今宵又血の出づる事とおそれつつ眠りに入りぬ月昇る夜』、(母の愛)『寝たまの食事終れば寝返へりとうらて背中の汗ふきて貰ふ』、『傍らに眠る吾が母に明方の月が窓よりとどきて居たり』、『疲れはてて居る母が寒き庭先に危なげに今朝の七輪とおこす』、(慟哭)『金の事泣きつつ父に伺ひつむる母の悲しき声きこえ居りつ』、『大学にもゆけず働らせられると言ふ時に姉よ病む弟の吾を憎むのか』(揺れる心)『ぼろ屑のごと汚なしと思ひきり今日はさげすむわが病む生を』、『病みながら二十六迄生きたるはしあはせなりと今日は思ひき』。

やがて、昭和25年。彼の結核を快方に向かわせたのは、ストレプトマイシン(SM)であった。ストレプトマイシンの製造許可が下りたのが、この年の10月、本格的な製造開始は翌昭和26年(1951年)である。当時は、ストマイを求める闇売買も横行し、公務員の初任給5千円の時代に4万円の費用が必要といわれた。歌集には、お金を出してくれない父と姉への恨み、「書いておくべし」という次の表現によろやく2万円を割いてくれた父への複雑な感情がうかがわれる。『歌作って居てもつまらないストマイの金出してくれぬ父と姉が憎し』、『ストマイの金二万円さきて呉れし時の老父も書いて置くべし』、『打ら終へしストマイの空箱手にしつ既にはかなし吾の心は』。こうして昭和25年4

月15日、病院で注射の手順を教わった姉の手によって、彼は初めてストマイを打った。

彼がようやく薬を使わなくなった時には、32歳になっていた。「結核癒えて吾32歳」と題する7首を遺している。『身につけし事一つなき十年に結核癒えて



図5

吾三十二』という歌には、結核が癒えたことへの安堵とともに、長い闘病によって失った時間への喪失感と焦燥が伝わってくる。やがて彼は、模索の期間を経て大学検定試験を受け、

昭和36年に東京医科歯科大学医学部に入学する。彼は昭和42年(1967年)、大学は違うが私と同じ年に、東京医科歯科大学を卒業、東京通信病院呼吸器科に勤務する。私が、同じ呼吸器領域で働く佐藤信英医師に出会い、長い付き合いが始まったのはその頃のことである。彼は、16歳も年長であることや、長く暗い結核の闘病を感じさせない、明るさと若々しきで接してくれた。やがて、地域医療の中で、かけがえのない妻との出会い(図5:妻と)。その後の人生が次第に確かな、随所に幸せを滲ませた歌が数多く遺されている。

晩年、彼は腎結核を患った左腎臓の摘出を受け、さらに、結核後遺症のため在宅酸素療法を開始、夜間には非侵襲性人工呼吸器を着けての生活であった。平成24年(2014年)10月14日、享年89歳で逝去。この歌集は、結核と共に生きた一人の医師の自分史にとどまらず、その時代の若き結核患者の心の様を描いた、貴重な社会的資料でもある。(つづく) 🍵

ずいひつ

～未来へつなぐあなたたちへ～ 仕事に向かう姿勢

長野県健康づくり事業団

総務部総務課長補佐 中村 明

2016年の某日、「結核予防会本部の佐藤ですが、事務職員セミナーのアドバイザーをお願いできませんか」との電話を受けた。概ねの内容はお聞きしたものの、「なぜ私が?」と……若干なりとも自身の経験を全国の若手職員へ伝えられる絶好の機会と前向きに捉え、快諾させていただいた。

今回、多くの先輩諸氏がいる中、若輩者が生意気なことを書かせていただくことは憚られるが、アドバイザーとして2016年の第35回から2024年の第39回の事務職員セミナーに参加させていただいた経験と、永く健診事業に携わった経験から、仕事をする上で大切なことは何か。事務職員セミナーの自己紹介で話させていただいていた内容の一端をご紹介させていただく。

仕事に向かう姿勢 3つの意識

【問題意識】…常に課題があることを考える習慣をつける

【コスト意識】…常にコストを意識して、無駄なものを発見する。守備範囲は確実に実行する。先を見越した行動をとる。固定費・経費の削減により自分の課・係を守るだけでなく、組織を守る

【改善意識】…問題点を発見したら、より良い方法に改善する

この意識を持って仕事をされると担当業務に対し、知識も持たねばならず、多方面からのアクセスにより興味も湧いてくるものと思います。

仕事に向かう姿勢 9つの効率

1. 「野球型」から「サッカー型」へ…制限時間を定める
2. 「標準化する」…人がする仕事が機械（EXCEL等のパソコン）でできないか
3. 「やめる」仕事を選ぶ…あったほうが良い、やったほうが良い仕事はいさぎよくやめる
4. 「まとめてやる」…集中化することで生産性を高める
5. 「やるべき仕事も、かける時間をぎりぎりまで削る」
6. 「目的のない会議をなくす」…司会者は具体的なゴールを明らかにする。時間を明確にする（会議時間は1時間ではなく30分、40分と10分刻みの設定により時間削減）

7. 「いつまでに」だけでなく「いつやるか」を決める

…先延ばしにはしない

8. 「なぜそれが必要か」「なぜ自分がやったほうがいいのか」…自分がやらなければならないか、人に任せられないか

9. 「顧客からのムリな要求にはノー」…時にはムリを聞いても常にムリに応えない。この9つを常に意識することで、時間の有効活用が図られ、就業時間内に処理できるクセがつけられるはずです。

あなたの強み

「好きな事」「得意な事」も当然お持ちのことと思います。ここに、多種多様な「経験」値が入り、あなたの「強み」となるはずです。

例えば、「好きな事」は、時間を忘れて行ってしまうようなことも一つでしょうし、「得意な事」は、他の人から「あなたは凄いね」と言われることも一つでしょう。「経験」は、人生上、仕事上にされてきた行為があると思います。

この「強み」を意識されて目的意識を持った行動をされると、新たな自分を生かす道が見えてくるはずです。できないでなく、できる（やれる、やる）人材になりましょう。

組織の未来をつなげるのは、現在の管理職でなく入社10年ほどの皆さんです。「誰かがやってくれる」、「誰かが導いてくれる」といった、他力本願的な考えでなく、自身の創造力を働かせて日々意識した行動により、自身の生活を豊かに継続できるように行動しましょう。

私たち健診機関が担っている事業は、県民ひいては国民の健康を維持する上で欠くことのできない重要な仕事です。自信と誇りを持ち行動してゆきましょう。

最後に、アドバイザーとしてこのセミナーに係らせていただくことも今回が最後となりますが、結核予防会本支部が益々発展することを願うとともに、この事務職員セミナーが結核予防会本支部職員の研修の機会としてより良いものとなりますよう切に願います。☺

結核・非結核性抗酸菌症に対する新しい治療薬の開発について



国立感染症研究所
細菌第二部第四室長 森 茂太郎

近年、ベダキリンやデラマニドといった新薬が開発されたことなどにより、薬剤耐性結核に対するレジメンが整備されてきている¹⁾。しかしながら、依然として長期間にわたる服薬が必要であることや新薬に対して耐性を示す株が既に出現していることなどから、治療期間の短縮や薬剤耐性が生じにくい治療法の開発につながるさらに新しい治療薬が求められている。また、世界的に非結核性抗酸菌 (NTM) 症の感染者数が増加している²⁾。有効な治療薬が少ないことがNTM症の治療上で大きな問題となっていることから、NTM症についても新しい治療薬や治療法の開発が強く求められている。結核やNTM症に対する新しい治療薬や治療法の開発については様々な論文が発表されている^{3,4)}。本稿では、既存の治療薬とは標的が異なる低分子化合物に焦点を当て、その標的ごとについていくつか紹介したい。

Decaprenylphosphoryl-beta-D-ribose oxidase (DprE1) を標的とした化合物

DprE1 は結核菌の細胞壁形成に不可欠な酵素であり、

Decaprenylphosphoryl-2-keto-beta-D-erythro-pentose reductase (DprE2) と共に decaprenyl-phospho-ribose をアラビノガラクタンおよびリポアラビノマンナンの前駆体である decaprenyl-phospho-arabinose に変換する⁵⁾。DprE1 阻害剤は共有結合型と非共有結合型の2つのタイプに分けられる⁶⁾。共有結合型DprE1 阻害剤にはニトロ基が存在しており、ニトロソ誘導体に還元された後にDprE1 のCys387残基と共有結合して酵素活性を阻害する⁷⁾ (図1A)。非共有結合型DprE1 阻害剤も基本的にほぼ同じ部位に結合するが、Cys387残基との共有結合は生じない (図1B)。DprE1 阻害剤のうち、BTZ-043とOPC-167832は新規結核治療薬候補として他の治療薬との併用効果などについて現在臨床試験が行われていることがClinicalTrials.govで確認できる⁸⁾。OPC-167832についてはフェーズIとI/IIaの臨床試験の結果について報告されており⁹⁾、フェーズIIb/c試験においても良好な中間解析結果が得られていることが最近発表された¹⁰⁾。一方DprE2については、活性化されたデラマニドやプレトマニドの標的であることが

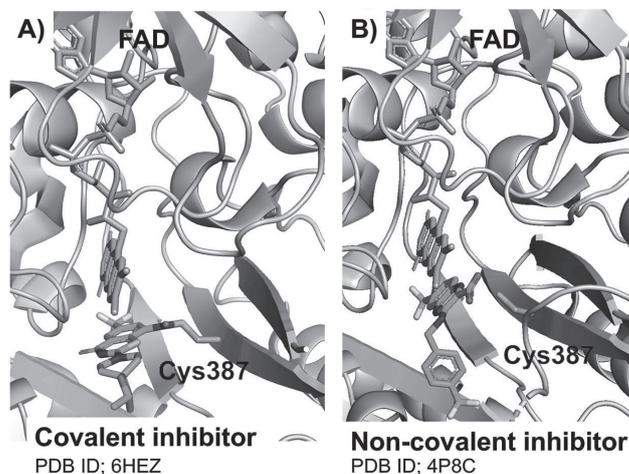


図 1. DprE1 と阻害剤の結合様式

最近報告された¹¹⁾。

アミノアシルtRNA合成酵素 (aaRS) を標的とした化合物

基本的に20種類のアミノ酸に対するそれぞれのaaRSが存在しており、aaRSは特異的なアミノ酸とtRNAを認識して結合する。以前よりaaRSは抗菌薬の標的として考えられてきた¹²⁾。最近、ロイシルtRNA合成酵素 (LeuRS) を標的とするGSK3036656が新規結核治療薬候補として報告されている¹³⁾。X線結晶構造解析によりGSK3036656の構造類縁体(阻害剤)とAMPとの付加物がLeuRSの編集ドメインに結合していることが示されていることから¹⁴⁾(図2)、GSK3036656も同様の作用機序であることが推測される。GSK3036656についてフェーズIとIIaにおける臨床試験の結果が報告されており^{15,16)}、現在は他の治療薬や上記のBTZ-043との併用効果などについて臨床試験が行われていることがClinicalTrials.govで確認できる⁸⁾。

DNA gyrase を標的とした化合物

DNA gyraseはGyrA 2分子とGyrB 2分子からな

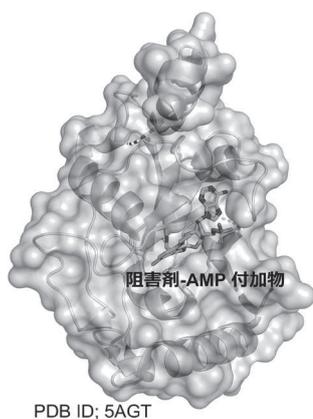


図2. LeuRSの編集ドメインと阻害剤-AMP付加物の結合様式

り、二本鎖DNAを切断・再結合してそのトポロジーを変化させる。DNAの複製において重要な役割を果たしており、主にGyrAがDNA鎖の切断・再結合をGyrBがATPase活性を利用したエネルギー変換を担っている¹⁷⁾。NTM症の新規治療薬候補として報告されているSPR720は、キノロン系抗菌薬の標的部位¹⁸⁾とは異なり、GyrBのATPase活性を阻害する¹⁹⁾。SPR720についてフェーズIにおける臨床試験の結果が報告されており^{20,21)}、現在は*Mycobacterium avium* complex症を対象とした臨床試験が行われていることがClinicalTrials.govで確認できる⁸⁾。

他にも複数の新規治療薬候補について臨床試験に進んでいることがClinicalTrials.govで確認できる⁸⁾。今後、これらの低分子化合物が結核やNTM症に対する新しい治療薬として上市されることが期待される。🍵

参考文献:

- 1) WHO consolidated guidelines on tuberculosis. Module 4: Treatment – drug-resistant tuberculosis treatment, 2022 update.
- 2) *Int J Infect Dis.* 2022;125:120-131.
- 3) *Nat Rev Drug Discov.* 2024;23(5):381-403.
- 4) *Front Microbiol.* 2024;15:1394220.
- 5) *Mol Microbiol.* 2014;92(1):194-211.
- 6) *ACS Omega.* 2022;7(45):40659-40681.
- 7) *Proc Natl Acad Sci USA.* 2012;109(28):11354-9.
- 8) <https://clinicaltrials.gov/>
- 9) *Antimicrob Agents Chemother.* 2023;67(6):e0147722.
- 10) https://www.otsuka.co.jp/company/newsreleases/2024/20240322_2.html
- 11) *Nat Commun.* 2023;14(1):3828.
- 12) *FASEB J.* 1998;12(15):1599-609.
- 13) *J Med Chem.* 2017;60(19):8011-8026.
- 14) *Antimicrob Agents Chemother.* 2016;60(10):6271-6280.
- 15) *Antimicrob Agents Chemother.* 2019;63(8):e00240-19.
- 16) *Nat Med.* 2024;30:896-904.
- 17) 日本化学療法学会雑誌, 2005;53:349-356.
- 18) *Biochemistry.* 2014;53(10):1565-74.
- 19) *Antimicrob Agents Chemother.* 2018;62(11):e01503-18.
- 20) *Antimicrob Agents Chemother.* 2021;65(11):e0120821.
- 21) *Antimicrob Agents Chemother.* Ahead of Print. DOI: <https://doi.org/10.1128/aac.01103-24>

多剤耐性肺結核治療薬の臨床開発とグローバル展開

大塚製薬株式会社

抗結核グローバルプロジェクトリーダー 川崎 昌則



1963年のリファンピシンの発見から約半世紀の間、結核に対する新薬は創製されなかった。いくつかの理由が考えられるが、その一つには結核菌は増殖が遅く、細胞内に感染する菌であるために薬剤の同定が難しかったことが挙げられる。大塚製薬は1964年に設立され、1971年から創薬研究を開始した。創薬研究のテーマの一つとして、結核を含む感染症が選ばれたが、結核治療薬の創薬活動は苦難の連続であった。天然物や低分子化合物での評価が様々試みられたが、抗菌活性と安全性のバランスに優れた薬剤を見出すにはかなりの年月を要した。そのような中、当時大塚製薬の社長であった故大塚明彦は、「公衆衛生の大きな問題である結核に対する新薬開発は製薬会社が取り組まなければならない社会課題への挑戦」と捉え、その活動を粘り強く支援した。1990年代半ばから始めた一連の化合物の合成展開を経て、2001年にはOPC-67683、後に「デラマニド」（一般名）と名付けられる化合物の発見に繋がった。

デラマニドは既存の結核治療薬とは異なる作用機序を有し、結核菌の細胞壁の重要な構成成分の一つであるミコール酸の合成を阻害することで抗菌作用を示す。2004年から臨床開発が開始されたが、そこでも様々な課題に直面した。リファンピシンの開発から40年近く経過し、医薬品開発の薬事的な要件も大きく変化する中、臨床での薬効評価も標準化がされておらず、全くの手探りの状況であった。当時のチームは、結核予防会の故島尾忠男先生に紹介していただいた世界中の関係者をあたり、最終的には初めての薬効評価となる第2相前期試験を南アフリカで実施した。この試験でデラマニド単剤での効果を確認した後、1990年代以降大きな問題となっていた多剤耐性結核に焦点を当て、当時としては多剤耐性結核を対象とした最も大きな臨床試験となった世界9か国で480人を超える患者を登録した第2相後期試験を実施し、他剤との組み合わせでのデラマニドの効果を確認した。その後第3

相試験も実施したが、第2相後期試験の結果で2014年に欧州と日本で多剤耐性肺結核治療レジメンの併用薬としてデラマニドは承認された。現在までに、結核の高蔓延国を中心に世界48の国・地域で承認されている。

デラマニドのグローバル展開では、数多くの国際機関や組織との連携が必要であった。まず初めに、世界保健機関（WHO）との連携に言及したい。2014年の薬事承認後のWHOへの情報提供が、暫定使用ガイダンスの発行や必須医薬品モデルリストへの掲載に繋がり、その使用に指針が示された。これにより、世界的にデラマニドの使用に一定の認知が得られた。次に、2016年にストップ結核パートナーシップのGlobal Drug Facility（GDF）と行った提携がある。これにより、グローバルファンドの支援対象国でのアクセスが可能となり、これまでの累計で100か国にGDFから薬剤が届けられた。また、2021年にEUで承認されたデラマニドの小児錠の展開では、日本政府の支援で2019年から始まったGDFの小児薬剤耐性結核イニシアチブに言及したい。このイニシアチブは2018年にニューヨークで行われた結核に関する国連総会ハイレベル会合で取り上げられた小児結核への対策を促進するものとして設立され、見過ごされてきた多剤耐性結核の小児患者の掘り起こしや治療環境の整備で大きな役割を果たした。デラマニドもこのイニシアチブで活用され、2021年に承認された小児錠もすでに50を超える国々で使用されている。さらに、南アフリカ、インド、ロシアなどのGDFによるアクセスが十分でない国々でのアクセスを実現するために、それぞれの国で展開する組織との連携も重要であった。特に、インドを拠点とするパートナー企業に対しては製造技術を移管し、現地での生産も可能となっている。この技術移管で生産できるようになったデラマニドは、本年WHOから事前認証を受け、今後さらに広い地域で使用されることが期待される。

デラマニドの更なる活用では、使用方法の最適化が肝要である。この点において、様々な国で展開されている医師主導臨床試験が非常に大きな役割を果たしている。すでに結果が報告されているものとしては、韓国でのMDR-END試験、インドでのBEAT-TB India試験、南アフリカでのBEAT-TB South Africa試験、国際共同試験のendTB試験などがある。これらの試験は各国政府や国際機関の資金支援で実施され、デラマニドを用いた短期化治療の可能性が示されている。本年8月にはこれらの試験の結果を元にWHOからRapid Communicationが発行され、来年前半にはガイドラインの改定が予定されている。現在も多剤耐性結核を対象とした試験だけでなく、感受性結核や予防投与に関する試験も実施されており、その結果が心待ちにされる。

結核の治療では効果を強くするとともに、耐性菌の出現を防ぐために作用機序の異なる少なくとも3種類以上の薬剤が組み合わせられる。2012年にベダキリンが多剤耐性肺結核治療レジメンの併用薬として、2019年にはデラマニドの同系薬となるプレトマニドが特定の組み合わせのみで使用できる多剤耐性肺結核治療薬として米国で承認されている。このように新規の多剤耐性結核治療薬として3剤が開発され、さらには他の細菌感染症用に開発されたモキシフロキサシンなどのニューキノロン系抗菌剤、リネゾリド、クロファジミンなどが多剤耐性結核の治療でも使用されるようになり、近年、多剤耐性結核の治療は大幅に改善されている。しかしながら、その治療の改善の余地は依然として大きく、大塚製薬ではデラマニドの開発と並行して結核治療薬の創薬活動を継続していた。その結果、2014年にデラマニドに続く候補化合物OPC-167832（一般名:quabodepistat）を発見するに至った。Quabodepistatは結核菌特異的に存在するリポアラビノマンナンやアラビノガラクトランの合成経路を担う必須酵素であるDprE1を阻害することで抗結核作用を

有する新規化合物である。この作用機序はデラマニドを含むあらゆる既存の結核治療薬とは異なるため、既存の結核治療薬と組み合わせて使用でき、新しい治療レジメンの開発が可能である。2016年から臨床開発を開始し、現在は南アフリカで第2相後期試験を実施している。本開発では、デラマニドで培った臨床開発の経験を反映させるとともに、第1相および第2相前期試験、さらに第2相後期試験のそれぞれに対して、米国のビル&メリンダ・ゲイツ財団から資金支援を受けて実施した。第2相後期試験の中間解析結果は本年3月に米国のデンバーで開催されたレトロウイルス・日和見感染症会議（CROI 2024）で報告し、最終結果は本年11月にインドネシアのバリ島で開催されるThe Union肺の健康世界会議での報告を予定している。現在は、次の開発ステージに向けた準備を進めている。

現在の状況がデラマニドの開発当時と大きく異なるのは、様々な国際的なコンソーシアムの存在である。現在は複数の化合物の臨床試験が実施されているとともに、新規治療レジメンの臨床開発を目指した国際的なコンソーシアムがいくつも活動している。大塚製薬は、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が主導するすべての結核患者で使用可能な短期化レジメンの開発を目指す「Pan-TB Collaboration」と欧州で効率的なグローバル臨床試験ネットワークを構築することで結核の新たな治療法の開発の加速を目指す「Unite4TB」に参画している。これらのコンソーシアムで薬剤の評価が進むことで、その使用方法の最適化が期待される。新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、WHOが目標としている2035年での結核の制圧はかなり難しい状況にある。一方で、新規の結核治療薬が複数登場し、国際的な臨床試験グループが治療方法の改善などに取り組むことで、特に多剤耐性結核の治療環境は急速に改善している。このような形で、民間のイノベーションと官民学連携の枠組みがさらに加速することが、近い将来での結核制圧に繋がるものと期待したい。🐱

2024年度 JICA 国際研修「健康危機に対応する結核対策（革新的技術を用いた保健システム構築）」に参加して

瀋陽市第十人民医院

瀋陽市胸科医院 曹宏麗 (Cao Hongli)

日本で開催された国際結核研究コースに参加したことは、私のキャリアにおいて意義深い経験でした。このコースは、私の専門知識を高めただけでなく、日本の文化、教育哲学、仕事のスタイルについてより深く理解する機会を与えてくれました。

まず第一に、講師の方々の貴重な指導とサポートに深く感謝しています。彼らの専門知識と献身的な姿勢は、私たちの学習体験を大いに豊かにしてくれました。いくつかの課題学習を組み合わせ、理解の表出能力を育成することを中心とした教育方法は、特に大きな影響力がありました。これらのセッションでは、先生方の双方向的な教育手法により、活発な議論と包括的な知識の統合が促進されました。先生方は知識を伝えるだけでなく、より広範な教育目標に沿って、批判的思考と文化的理解の感覚を私たちに植え付けました。先生方の優れた解決方法を追求する姿勢は、私の語学力を高めただけでなく、個人的な成長を促しました。先生方の指導は、私の専門スキルを高めただけでなく、効果的な教育方法論に対する私の視点を豊かにしてくれました。

第二に、このコースの専門性に非常に感銘を受けました。コース中、私たちは最新の研究成果、予防戦略、結核対策における日本の経験を深く学びました。日本の専門家の説明は奥深くて分かりやすく、理論と実践を融合させ、結核を新たなレベルで理解することができました。さらに、海外の同僚との交流により、さまざまな地域の結核対策の実践と課題についての洞察を得ることができ、将来の仕事に大きな参考価値をもたらしました。

さらに、日本文化の独特の魅力に刺激を受けました。コース中の余暇には、日本の有名な史跡を訪れ、日本の伝統文化と現代文化の調和を体験する機会がありました。さらに、日本人の労働倫理と献身的な姿勢から、深い洞察を得ることができました。研修プログラム中、

私は日本人が細心の注意を払い、仕事で卓越性を追求し、細部にまで細心の注意を払っていることに気づきました。この精神は専門分野だけでなく、日常生活にも浸透しています。医療専門家として、この精神は学び、模倣する価値があると感じています。

最後に、この研修を通じて、国際交流の重要性をより深く認識することができました。グローバル化の文脈において、結核などの感染症の予防と制御には国際的な協力と交流が必要です。この研修を通じて、私は世界中の多くの同僚と出会い、経験と洞察を共有しました。これは間違いなく私にとって貴重な財産となるでしょう。

まとめると、日本結核国際研修プログラムは、やりがいのある学習体験でした。プログラム中に得た知識と経験を実際の仕事に応用し、中国の結核の予防と制御に貢献します。同時に、日本の文化的魅力と日本人の献身を周囲の人々に広め、共に向上していきたいと思えます。🍵

結核の統計 2024 完成



A4判・定価 3,850 円

お問合せ先：結核予防会出版調査課

令和6年度第1回複十字シール運動担当者オンライン会議

9月5日(木) 14:00～15:30

結核予防会事業部

募金推進課長

佐藤 奈津江

令和6年9月5日に第1回複十字シール運動担当者会議をオンラインで行い、31支部36名の皆様にご参加いただきました。

前回12月の会議のアンケートで、情報交換の希望が多かったため、今回は各支部の取り組みが分かるような情報交換を行いました。

前半は5グループ（ブレイクアウトルーム）に分かれて「令和6年度の複十字シール運動の取り組みについて、他の支部の活動でよいと思ったこと、自分の支部に取り入れたいこと」についてグループ討議を行いました。グループ分けについては、今回約半数近くの出席者が経験年数1年未満から2年でしたので、なるべく経験年数が偏らないように分けました。また、当日の出欠に関わらず、全支部の担当者にご協力いただいた事前アンケートの結果を共有して討議の参考資料としました。

後半は各グループの代表者に討議の結果を発表していただきました。各支部の取り組みについて普及啓発活動では、建物を結核対策のシンボルカラーである赤色に染めるライトアップの実施が増えたことが印象に残りました。ライトアップについては費用の面からもハードルが高いイメージがありますが、無料でやらせ

ていただいているという支部もあり、今後ライトアップの活動を全国に広げていく上で大変貴重な情報だと感じました。X等のSNSについてもすでに活用している支部もあり、関心が集まりました。SNSは外部への情報発信と共に、支部同士の情報共有としても重要なツールの一つとなるのではないかと思います。

募金活動では、お祭りに出店し、ガチャガチャやわたあめの売り上げを募金にあてる活動が報告されました。募金に楽しみの要素を盛り込んだところが良いと思いました。また、地元のスーパーに募金のお願いをしたところ、社会貢献を考えている企業であったことから新規開拓となったという事例もあり、これからの募金方法としてとても参考になりました。

ここ数年間で、新たな啓発活動や郵送募金以外の募金方法が増えました。全国の支部が集まる会議で情報やノウハウを共有することはとても大切なことだと改めて感じました。

最後に結核・呼吸器感染症予防週間を控え、大変お忙しい中ご参加いただいた皆様と事前アンケートにご協力いただいた全支部の皆様にご心より感謝申し上げます。🐼



本部事業部長（写真左）より挨拶



オンライン会議の様子

多額のご寄附をくださった方々

〈指定寄附等〉(敬称略)

木村幹男

〈複十字シール募金〉(敬称略)

本部(令和6年度ご寄附分) (団体) 牧田産婦人科医院

(個人) 宮川美知子, 羽入直方, 武内昭二, 北原嘉泰, 佐藤奈津江, 永田容子, 辻知子, 小坂克己, 尾身茂, 國分恵子, 前田秀雄, 酒井祐貴

大阪府 (団体) 泉本医院, 鴻の里, 大丸鋳製製作所, 溝口医院, 加貫ローラ製作所, 明治機械製作所, 緑風会 緑風会病院, 大村屋, クリーンケミカル, 岩本法律事務所, 実行教大阪教務庁石切教会, ABC調剤薬局, 福村タイヤ商会, 大坂雅己税理士事務所, NIC, 吉祥院, 光テレホニイ, 田村栄, 啓仁会 咲花病院, マリンスター, コガチ金属工業, 野田商家商工, 東大阪障害者在宅支援センター業の花, 岡田歯科医院, 金尾不動産鑑定, ONE FLAG 牧病院, 秀社会クリニック, 小市学園, 鶴満寺, ムラカミ鋼管, 元禄産業, 禅宗地蔵院, Merinoria, 江石庵, 川田鉄工所, 弥栄神社, コネクト, 栗東寺, 総持寺, ハクキンカイロ, 豊和貿易, アルゴセキュリティ, 整形外科多田クリニック, 肉の和, 石川特殊特急製本, さくら, ボルカノ, 東邦システム, 天理教高安大本会, 並木税理士事務所, 山田眼科医院, 金光教島之内教会, 奏和法律事務所, 日炉工業, 大庫洋紙, メンデル, 大京システム開発, いずみ会 阪堺病院, ひびき監査法人, しおたにクリニック, オフィス後藤田, キヤノンメディカルサービス, 三井住友海上火災保険, 大阪府和泉保健所, 廣井皮膚科, 小山医院, 本徳寺, ファーマシーオカムラ薬局光風台店, ファーマシーオカムラ薬局とさわ台店, サンプルザ調剤薬局本部事務局, 中川歯科, シンワ, バルコエクスプレス, ヒューマンティー, 千輝会, 樟蔭学園, 小厚化成, 稲光製版, 日本医化器械製作所, 井川税理士事務所, 前田商店, カイダ医院, 平野潤一税理士事務所, 植原胃腸内科医院, 河野プラント工事, 大阪自強館, 英皇会介護老人保健施設港さつき苑, やまびこ会腎・循環器もはらクリニック, 森井塗装店, 阪神給食, ほんみち泉南支部, タイユ, 市橋眼科, 香林堂, 住吉大社,

東洋製薬化成, 山本美材, 大阪府済生会吹田病院, 仲栄設備, 労務管理・経営管理中村事務所, 岩本製作所, 大阪相統遺言相談センター, ビージーエム, 光陽会光陽保育園, 平尾&パートナーズ, 佐藤産業, 扇谷, 齊藤知子税理士事務所, 三協国際特許事務所, 全国共済農業協同組合連合会大阪本部, 弘生会老寿やすらぎ病院, アズワン訪問看護ステーション, 小林製薬中央研究所, 日本精線, 東山産婦人科小児科, 新いづもや, 大阪府藤井寺保健所, 大阪府泉佐野保健所, 大阪府健康医療部, 大阪府富田林警察署, ふじや印刷, 竹内化学, 関西エンジニアリング, エルアンドエル, 関葉

(個人) 吉田忠春, 佐野宏宏, 金井史, 西岡祥典, 甲木宏明, 具志堅巖美, 伊藤栄次, 波多野吉洋, 中村裕之, 金田立男, 吉田哲郎, 中川洋一, 北風慎久, 三軒久義, 三上育子, 樋口洋子, 水谷義房, 中谷浩, 重光利朗, 河村信幸, 大谷光滋, 鈴木龍人, 小林一朗, 藤田修一, 村上正光, 定光博文, 嶋田誠, 吉田学, 橋衣代, 大崎正博, 木村文雄, 山田純嗣, 小澤昌治, 浅田照次, 山名和枝, 谷口学, 黒田恭年, 西原弘, 金杉加代, 宮本俊弘, 旗登裕久, 鈴木精一, 中嶋睦子, 小林太郎, 丸川恭子, 乾慶子, 本多明代, 田中令子, 阪口恵蔵, 小泉葉里子, 山口伸六, 竹村理, 中村猛, 橋本祐次, 藤野正勝, 三ツ橋建彦, 宮崎茂次, 首藤修一, 高島相之助, 野村明雄, 矢追千鶴子, 木下芳明, 山田晶一, 西川昌廣・節子, 中田雅久, 薩摩和男, 須永恭司, 澤昇, 久保しおり, 寺西融, 永尾尚子, 山口修, 有山富美子, 若原孝徳, 小西美代, 佐藤賢一, 旗登裕久, 盛田利郎, 白土武裕, 佐藤壽, 三好隆夫, 吉野和昭, 米田明正, 赤井マリ子, 大森布実子, 三浦環子, 川崎優美, 飯尾明郎, 梁川健弘, 河面孝, 増田國次, 寺坂邦広, 渡邊和彦, 菱沼繁道, 平井治徳, 木谷和男, 相原芸術, 岡部文雄, 鈴木崇浩, 志野公彦, 服部忠之, 甲木宏明, 久保田佳伸, 川瀬慶一, 山下晴己, 岡本安代, 西田博, 岡村良孝, 志村晴信, 名和茂, 辰見宣夫, 浅野英雄, 八木和歌徳, 松下隆信, 伊泊大造, 米田明弘, 宇賀一郎, 元山福祥, 谷口祐晟, 水本惣二, 片本院也, 森本靖彦, 木村元士, 藤原敏正, 伊庭紀美子, 松下朱実, 大平政義, 小阪文男, 石田栄志, 後藤和彦, 羽田正史, 阿部奈々美, 牧亮太, 中谷廣一, 奥野賢, 倉林正雄, 森本淳祐,

南出英之, 北條秀樹, 日西京子, 伊坂泰治, 関根清寿, 山寺照子, 小林立美, 石田泰三, 山根孝子, 砂本清, 山本忍, 山本清一, 益満陸実, 永田清文, 辻賢太郎, 若下秀夫, 小倉剛, 大槻博司, 植田貴光, 北居一哉, 芝原英司, 中村孝枝, 西田邦輔, 暮部美津代, 川崎健二, 岡本敬司, 内藤道夫, 中村修一, 永井利夫, 杉原庇, 稲岡順子, 大谷みゆき, 中野眞雅, 妙代さき子, 谷口英春, 鍵本成敏, 山本和貴, 河面孝子, 矢追正典, 大島至郎, 山内悦治, 渡部ヒサ, 東昭和, 岡野具栄, 月岡榮子, 安藤彰

香川県 (団体) 池田内科クリニック, イオン高松・イオンモール高松, 四国特機, 高松市医師会, 高松赤十字病院, 中央クリニック, 特別養護老人ホーム弘恩苑, 直島町役場住民福祉課, 東かがわ市役所長寿保健課, 三木町役場住民健康課, 三豊総合病院企業団, 屋島総合病院

福岡県 (団体) 福岡県職員, 福岡県嘉徳・鞍手保健福祉環境事務所, 福岡県京築保健福祉環境事務所, 福岡県南筑後保健福祉環境事務所, 福岡県筑紫保健福祉環境事務所, 福岡県田川保健福祉事務所, 福岡県粕屋保健福祉事務所, 筑紫野市役所, うきは市役所, 宮若市役所, 久留米市保健所, 福岡県医師会, 福岡市医師会, 直方鞍手医師会, 福岡県歯科医師会, 直方歯科医師会, 遠賀中間歯科医師会, 北九州市薬剤師会, 中間市婦人会, 那珂川市婦人会, 大川市連合婦人会, 福津市地域婦人会, 大木町婦人会, 久留米市田主丸町地域婦人会, 久留米市女性の会連絡協議会, 遠賀町婦人会, 遠賀郡婦人会, 飯塚市婦人会, 桂川町婦人会, 柳川市地域婦人会連絡協議会, 北九州市環境衛生総合連合会, 福岡県立精神医療センター太宰府病院, 徳洲会 福岡徳洲会病院, 天神会, 原鶴温泉病院, 井上会, 弘恵会, 芙蓉会筑紫南ヶ丘病院, 松岡会松岡病院, 広川病院, 久美愛福岡耳納高原病院, 信和会大牟田保養院, 田中医院, 菊池クリニック, 福岡浦添クリニック, 社会保険診療報酬支払基金, 生命保険協会, ヤマニ醬油, 小林政人税理士事務所, 西方寺, ゆうかり学園, みつる会城浜保育園, 西南学院

(個人) 上田忠成, 松原俊幸, 村上巧, 飯田勝行, 出雲敏夫, 原田英治

●お詫びと訂正●

本誌 No.418 (2024年9月号) P2「結核・呼吸器感染症予防週間への変更について」において、下記の通り誤りがございました。表内の結核の新規患者数は1,600万人ではなく、正しくは1,060万人です。ここに深くお詫びし、訂正させていただきます。(編集部)

【誤】

結核:世界の健康問題(三大感染症)

2021年 新規患者(感染者)数および死亡者数(推定)

	新規患者数	死亡者数
結核 ¹⁾	1,600万人	160万人*
HIV ²⁾	150万人 (感染者)	65万人 (AIDS関連死)
マラリア ³⁾	2億4100万人	62.7万人
新型コロナウイルス感染症 ⁴⁾	1億6450万人	240万人

*約18.7万人はHIV合併

¹⁾ WHO Global tuberculosis report 22
²⁾ UNAIDS FACT SHEET 2022
³⁾ WHO World malaria report 2022
⁴⁾ Johns Hopkins Coronavirus Resource Center (2019.12 - 2023.10年最新データ)

【正】

結核:世界の健康問題(三大感染症)

2021年 新規患者(感染者)数および死亡者数(推定)

	新規患者数	死亡者数
結核 ¹⁾	1,060万人	160万人*
HIV ²⁾	150万人 (感染者)	65万人 (AIDS関連死)
マラリア ³⁾	2億4100万人	62.7万人
新型コロナウイルス感染症 ⁴⁾	1億6450万人	240万人

*約18.7万人はHIV合併

¹⁾ WHO Global tuberculosis report 22
²⁾ UNAIDS FACT SHEET 2022
³⁾ WHO World malaria report 2022
⁴⁾ Johns Hopkins Coronavirus Resource Center (2019.12 - 2023.10年最新データ)

2024年(令和6年)11月15日発行
複十字 419号

編集兼発行人 永田容子

発行所 公益財団法人結核予防会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-13-12

電話 03(3292)9211(代)

印刷所 株式会社マルニ

〒753-0037 山口県山口市道祖町7-13

電話 083(925)1111(代)

結核予防会ホームページ

URL <https://www.jatahq.org/>

〈編集後記〉

また急に冷え込む時期となりました。おせちを予約するか、迷っているこの頃です。

本誌は皆様からお寄せいただいた複十字シール募金の益金により作られています。

令和6年度複十字シールご紹介

複十字シール運動は、結核や肺がんなど、胸の病気をなくすため100年近く続いている世界共通の募金活動です。複十字シールを通じて集められた益金は、研究、健診、普及活動、国際協力事業などの推進に大きく役立っています。皆様のあたたかいご協力を、心よりお願いいたします。

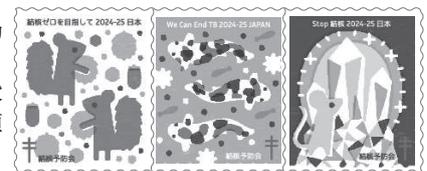
募金方法やお問い合わせ:募金推進課

結核予防会 募金

検索

またはフリーダイヤル:0120-416864(平日9:00~17:00)

令和6年度複十字シール



🌸 令和6年度結核・呼吸器感染症予防週間レポート 🌸

山口県



山口県総合保健会館1階展示ホールにて、結核・呼吸器感染症予防週間に関するパネルやポスターを展示、結核の常識とリーフレットを配布。

徳島県



あわぎんホール（徳島市）で開催した「健康を考える県民のつどい」において、複十字シール運動のブースを設け、来場者に対してリーフレットを配布するとともに募金活動を実施した。

香川県



町主催の健康まつりに参加し、肺機能検査を実施するとともに、「結核の常識」等のパンフレットを配布した。また、県内の結核・肺がん検診会場にて「結核の常識」等のパンフレットを受診者に配布し、結核・呼吸器感染症予防週間の周知を行った。

愛媛県



9月24日（火）～30日（月）の7日間、日没から21時の時間帯で、愛媛県庁本館ドームを結核予防のシンボルカラーである赤色にライトアップした。愛媛県庁のホームページを活用し、結核を正しく理解し予防するにはどうすればよいかを考えていただくきっかけとした。感染症は新型コロナウイルス感染症だけでないことも認識していただく意味も含めた啓発、周知を行なった。

高知県



高知市街地にて、高知県健康づくり婦人会連合会役員と協力して街頭キャンペーンを行った。当日はイベント日和でもあり、結核啓発の呼びかけやパネル展示、また地場産品の懸賞付きの結核に関するクイズを通じて、大変多くの方に結核予防の啓発活動を行うことができた。

福岡県



福岡県結核予防婦人会のご協力を得て、福岡市中心街である天神にて結核・呼吸器感染症予防週間の周知のため、呼びかけをし、複十字シール運動募金のチラシも同封した普及啓発資材を道行く人々へ配付した。

令和6年度結核・呼吸器感染症予防週間レポート

佐賀県



佐賀県健康づくり財団、健康を守る佐賀県婦人の会及び佐賀県の3者によりキャンペーン活動をモラージュ佐賀とゆめタウン佐賀で実施した。当日は、結核予防啓発資料の配布、募金活動、無料健康相談や血圧測定を行った。

長崎県



9月25日(水)に諫早市本町商店街ポケットパークにて、長崎県地域婦人団体連絡協議会の協力のもと、結核の常識、リーフレット、マスク等を配布して結核に関する正しい知識の普及啓発と募金のご協力をお願いした。

熊本県



「ゆめタウンはません」にて、関係団体と協力し普及啓発活動を実施した。ポスターや肺がん模型の掲示に加え、血圧測定や野菜摂取レベル測定等も実施したため、大勢の方に来て頂くことができた。ファミリー層には、キッズコーナーやマスコットキャラクター「そうぼくん」との記念撮影も好評だった。

宮崎県



宮崎県地域婦人連絡協議会と県内2か所街頭キャンペーンを行った。その様子は新聞3社とテレビに取り上げられ、広く県民に発信することができ予防の大切さを伝えることが出来た。また、イオンモール延岡では、結核健康診断も実施した。

鹿児島県



9月30日(月)に鹿児島県地域婦人会連絡協議会のご協力を得て、JR鹿児島中央駅東口近辺で結核・呼吸器感染症予防週間の周知の呼びかけをし、複十字シール運動募金のチラシも同封した普及啓発資料を配付した。

2024年は結核予防週間から「結核・呼吸器感染症予防週間」になって、初めての節目の年となりました。これからも、結核のない世界を目指して、普及啓発を進めてまいります。